聖徒の道

聖徒の道

1973 1

心の糧

七十人最高評議員会会員
ハートマン・レクター・ジュニア

時として私たちは次のような考えを抱くようである。死んで霊界に入ると全く異なった者になる。死ぬと，その性格は突如として奇跡的な変化をとげると。しかしこういった考えほど，真実からはるかへだたったものはない。魂は死によって変化するものではない。私たちは同じ存在である。（アルマ34：33—34参照）

聖典は，霊界に二つの異なった場所があると語っている。ある時はパラダイスとして，また他の時にはひとやとして。しかし，事実は霊界はまことに一つの場所であり，それが私たちにとって何であるかは，そこに入る時の状態によるにすぎない。麻薬に溺れたり，悪い習慣やよこしまな欲望を抱いたまま逝けば，そこはひとやとなるであろう。

まさしく霊界において悔い改めることは可能であるが，もちろんそこでの悔い改めは，私たちを助ける肉体を持たないが故に一層困難であることはよく知られている。また悔い改めの欠くべからざる部分は，償いをせねばならないことである。霊界でこれをなすのは極めてむずかしいであろう。

復活は主イエス・キリストとパウロの言葉によれば，「眠っている者の初穂」により現実に可能となった。主が復活したもうたが故に，この地上に生き，またこれから生きんとするあらゆる人類もまた復活するのである。（Ⅰコリント15：20—22）好むと好まざるとにかかわらず，人類は再び生き，そのなせる業によって裁かれる。そしてその復活の時におけるおのおのの状態は，大いにその報いを決定するであろう。汚れたる者はやはり汚れたままであり，義しい者はやはり義しい。（Ⅱニーファイ９：16参照）そしておのおのが受くべく備えたままを受けるであろう。

私はイエスがキリストであり，生きてましまし，悔い改めを可能にし，すべての者に要求されることを可能にされたと証する。神の戒めは愛する天父により，私たちがこの地上と霊界とで自由となり，抑圧されない魂をもって霊界に逝き，そこで新しい知識を受くべく備え，正義の復活を通してさらにより偉大にして永遠なる栄光を得べき状態となるために与えられたものであることを証する。これらを主であり救い主であるイエス・キリストのみ名により証するものである。アーメン。

もくじ

編集部より…… 1
プロボ神殿献堂の祈り…… 2
宣教師とメッセージ……ヒュー・B・ブラウン…… 8
部屋……エドウィン・グリーンロウ・サップ……10
おのれを欺く……スペンサー・W・キンボール……12
なぜ清くあるべきか……ボイド・K・パッカー……14
質疑応答……17
おひゃくしょうさんとおんどり「セス」……ヴァージニア・マーセイ……21
やってみましょう……ロベルタ・フェアラル……23
小さなお友だちへ……ブルース・R・マッコンキー……24
モルモン……マーベル・ジョーンズ・カボット……26
方針とプログラム……29
平安はどこから来るか……ジョン・H・バンデンバーグ……30
愛の法廷……ロバート・L・シンプソン……33
アロン神権—確かな土台……ビクター・L・ブラウン……36
家庭での模範……H・バーク・ピーターソン……39
ジョセフ・F・スミス……マーサー・R・バセット……41
ローカル・ニュース……46

今月の表紙

（上）ジョン・H・バンデンバーグ長老とロバート・L・シンプソン長老，両者とも1972年４月の総大会で十二使徒評議員会補助に支持された。（下）新しい管理監督会，H・バーク・ピーターソン監督，ビクター・L・ブラウン管理監督，ボーン・J・フェザーストーン監督。裏表紙は大会のあとタバナクルを退場する会衆。

末日聖徒イエス・キリスト教会教会幹部

大管長会

大管長
ハロルド・B・リー
第一副管長
N・エルドン・タナー
第二副管長
マリオン・G・ロムニー

大祝福師

エルドレッド・G・スミス

十二使徒評議員会

スペンサー・W・キンボール
エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・スティプレー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー

十二使徒評議員会補助

アルマ・ソニ
エルレイ・L・クリスチャンセン
スターリング・W・シル
ヘンリー・D・テイラー
アルビン・R・ダイヤー
フランクリン・D・リチャーズ
セオドア・M・バートン
バーナード・P・ブロックバンク
ジェームス・A・カリモア
マリオン・D・ハンクス
ジョセフ・アンダーソン
デビド・B・ハイト
ウィリアム・H・ベネット
ジョン・H・バンデンバーグ
ロバート・L・シンプソン
O・レスリー・ストーン
ジェームス・E・ファウスト
L・トム・ペリー

七十人最高評議員会

S・デルワース・ヤング
ミルトン・R・ハンター
A・セオドア・タトル
ポール・H・ダン
ハートマン・レクター・Jr.
ロレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー

管理監督会

ビクター・L・ブラウン
H・バーク・ピーターソン
ボーン・J・フェザーストーン

ステーキ部・伝道本部住所

東京ステーキ部 〒107 東京都港区北青山3の6の4
TEL (03—407—2465)

大阪ステーキ部 〒560 大阪府豊中市岡町北1の2の3
TEL (068—52—3723)

日本東伝道本部 〒063 札幌市中央区北2条西24の245
TEL (011—611—3697)

日本伝道本部 〒106 東京都港区南麻布5の8の10
TEL (03—442—7438)

日本中央伝道本部 〒657 神戸市灘区篠原本町4の6の28
TEL (078—88—2712-3)

日本西部伝道本部 〒810 福岡市中央区平尾浄水町46
TEL (092—52—6048)

編集部より

多くの人が新年にあたり，年頭の決意をする。悪い習慣をやめ，よい態度や習慣を身につけようという決心である。もちろんそのことはよいことである。しかし年頭の決意が三日坊主に終りやすいことは衆知のことでもある。

決意が破られる大きな理由は，一度に1日ではなく，一度に1年を生活しようとするからである。絶えざる努力奮闘の1年を考えれば気落ちすることもあろうが，一度に1日，悪い習慣をやめてよい態度をとることはそうむずかしくない。それを行なう人は，生活をよい方向へ変えていくのがあまりに簡単なのに驚くであろう。

決意が破られるもう一つの理由は，毎日繰り返される決まりきった生活に没頭して，決意を忘れてしまうか，それに集中できなくなるためである。この障害を克服できる一つの方法は，毎日の祈りの前に短い黙想の時間をとることである。私たちは朝，1分間だけ自分の目標や決意について考え，それから実行する力を祈ることができよう。夜はそれがどのように実行できたか1日を反省し，主の援助を感謝するのである。

特に悔い改めの原則を忘れずに，よいことは翌年の初めまで待たなくともよいということを知っていなくてはならない。自己改善を始めるにはいつでもよい。主が私たち皆を祝福し助けたもうて，新しい年が，完全へ向かう進歩の年となるように願っている。

今月の聖徒の道

今月号には，12月号に説教が掲載されたフェザーストーン監督を除き，表紙の教会幹部の大会説教が載せられている。またプロボ神殿献堂の祈りも掲載されている。全世界の聖徒を代表するスミス大管長の祈りは精読すべきものである。

プロボ神殿献堂の祈り

1972年2月9日

今年は1カ月に2度に及ぶ神殿の献堂が行なわれたが，その2番目にあたるプロボ神殿の献堂式が，2月9日，同神殿の日の栄光の部屋で行なわれた。（オグデン神殿は1月18日から20日にかけて行なわれた集会の中で献堂された。）

プロボ神殿の献堂式には7万人を越える人々が参列した。儀式は日の栄光の部屋で行なわれ，神殿の他の場所とブリガム・ヤング大学構内の数か所に閉回路でテレビ放送（カラー）された。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の献堂の祈りは大管長の要請によりハロルド・B・リー第一副管長により代読された。

献堂式は伝統的にいつも歌われるホザナの聖歌「感謝を神にささげん」と「ホザナの叫び」をもって終了した。献堂の祈りは次のとおりである。

天地とその万物の創造主にして永遠の父なる神よ，汝のかたちにかたどりて我ら汝の子らを創りたまい，汝に従う力と自由意志を与えたもうた「聖なる人」よ，万事を知りたもうて，あらゆる力，勢力，支配力を持ちたもう汝よ，宇宙を創造し，汝の手になるあらゆる業を正義と公平と慈悲により治めたもう神よ，汝の大いなる聖きみ名をあがめさせたまえ。

我らは汝の生みたまいし独り子なる「人の子」のみ名により汝のみ前に来たり，この聖なるみ名によりて我らが汝に近づくよう汝が定めたまいしみ名により，我らが声をあげて汝をたたえ感謝を表わし，汝の手より祝福を求むるにあたり，我らの上に聖きみたまのあふれんことを願い奉る。

我らは知る。汝は我らが父にして，我らは汝の手に成る者，汝に飼われたる羊，汝の聖徒なり。我らは授けられている命，ここに在ることまた地の人々に不滅の福音を完全に与えたもうたこの時代に生まれる特権を得させたもうたことを感謝し奉る。

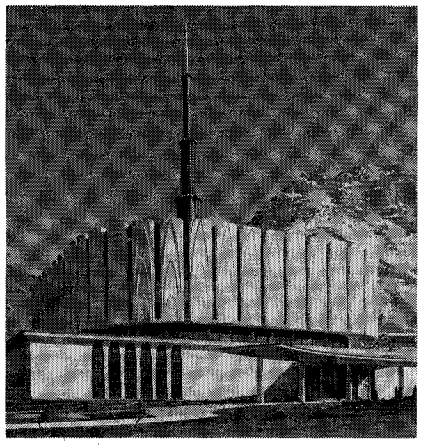
汝の福音が万人にとりて救いの計画なること，汝の愛し選びたる者を贖い主，救い主に選びたもうて大いなる計画を力強く生かしたもうたことに我らの心は感謝に満つるなり。我らは汝の愛子による贖いの犠牲に感謝し奉る。すなわち御子は世の罪のために十字架にかかりて死にたまい，我らを肉体と霊の死より贖い，その打たれし傷によりて我らはいやされたればなり。また我らは互いに喜ばしき愛を持ち，汝の御子イエス・キリストの血によりてあらゆる罪より清めらるべく啓示されし真理の光のうちを歩まんとの誓約を交わしたり。

そして今や汝の憐みにより我らはイスラエルの聖者をたたえ奉らん。我らの父祖アブラハム，イサク，ヤコブの神なるエホバよ，「ほふられ，その血をもて諸々の族，国語，民，国の中より人々を神のために買い，これを我らの神のために王となし，祭司となしたまいて我らが汝と共に一千年の間住まうようなしたもうた神よ，汝は「力と富と知恵と勢いととうときと栄光とさんびとを受くるにふさわしかれ」と言わしめたまえ。

天父なる神よ，我らをとこしえに力ある義の民のうちに数え共に讃美せしめたまえ。「願わくは御座に座したもうものと小羊とに，讃美ととうときと栄光とちからとが世々限りなくあらんことを。」

父よ，我らは汝が子らにしたまいし愛と慈悲と謙譲に対し心にある感謝を表わす力なき者なり。御子を信じる者がみな永遠の生命を受け得るよう汝の生みたまいし独り子をつかわしたもうた愛と慈悲に我らはただ驚く。またこの神権時代に汝のしもべジョセフ・スミス(二代目)を通じ，完全なる永遠の福音を回復したもうた汝をほめたたえ奉る。

汝が愛子と共にこの最後の福音の神権時代を開くべく1820年



春に現われたもうたこと，汝がモロナイをつかわしモルモン経を現わしたもうたこと，バプテスマのヨハネ，ペテロ，ヤコブ，ヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに神権を与えたまいしこと，モーセ，エライジヤ，エライヤス，カブリエル，ラフアエル，現在に至るまでの天使が栄光の宮より来たりて，「その神権の時代，その権能，その鍵，その誉，その威厳，その栄，その神権の権能を宣言し，規則に規則を加え，則に則を加え」，救いの全計画をそのあらゆる美と栄光と共に現在再び地上にもたらしたもうたことに感謝し奉る。

主よ，我らの時代に更新され明らかにされし救いの真理に感謝し奉る。この末日に汝の大いなる業を行なうため高貴にして偉大なる霊たちがつかわされしことに感謝し奉る。我らは予言者ジョセフ・スミスと大祝福師ハイラム・スミスの使命と業に喜び奉る。二人はこの最後の神権時代の鍵を有し，血によりて証を結び固めたるなり。

我らはこれまでに召されたすべての予言者が強い信仰を持ち献身したことを，また忠実な聖徒が数多くいたことを感謝し奉る。願わくはこれら先達に伴ったと同じ力が我らにも与えられんことを。

我らは汝の神権を，実に結び固める力を予言者エライジャの手により顕わしたもうたことを感謝し奉る。この力により汝の忠実な聖徒たちはこの神殿及び他のすべての聖なる宮で，いと高きところより権能を賜わり，永遠の誓約に入ることを得るなり。而してこの誓約によりアブラハム，イサク，ヤコブ及びすべての聖なる予言者の祝福をことごとく受くる扉開かるなり。

我らは汝の御子の生涯にならわんことを求むるなり。我らと我らの子ら，子らの子らに義を願い，この聖なる宮居に顔を向け汝の聖なる神殿のみに見出される完き祝福，すなわち家族がとこしえに祝福を受け継ぐにふさわしき者とならんことを願い奉る。

父よ，汝は我らが自己と子孫にのみならず，祖先にもこれらの祝福が与えられることを求め

ていることを知りたもうなり。何とならば，汝はシオン山の救い手たる我らが美しき死者を救い贖う力を有すると言いたまいたればなり。我らがこの業を進め行く時汝の導きと光があらんことを求むるなり。こは地の初めより人の子らに啓示されしうち最も大いなるものなればなり。

神よ，汝の聖徒がその数を増し，義しきにかないて汝に仕えあらゆる国々に神殿を建つるよう汝が命じたもう日々を待ち望むものなり。我らは全人類が汝の子なるを知る。この宮居に来るすべての者が自由に来たりて命の水をとり，全心を尽して汝を愛し仕える者のために備えられたる完き祝福を得んことを祈り奉る。

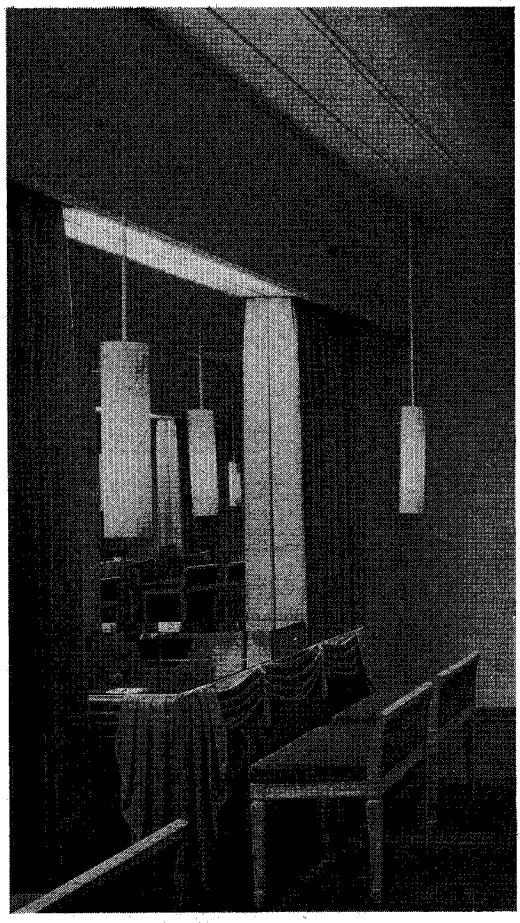
主よ，耳を傾けたまえ。憐みをもて我らを見，我らの願いを聞きたまいて，我らがシオンの安寧とその関心を願う時，義なる望みを聞き届けたまえ。こは汝の教会なり。汝が建て，「人に知られぬ所よりまた暗き所より全地の面に於ける唯一の真にして生命ある」教会なり。今や汝は教会を「明らかなること日の如く，清らかなること月の如く万国の民をしてその旗を怖れ」しめたり。そは，あらゆる地に住む者たちが，こは汝の業にして，彼らが御子のもとに来たりて律法に従い，汝の永遠の王国にて救いを得べきことを知らしめんためなればなり。

全地にシオンへの関心が広まり，我らに勝利を得させたまえ。願わくは，汝の教会なる汝の王国が，「天の王国の来らんためまず神の王国を出で行かせたまえ。神よ，かくして天に於ける如く，地に於ても栄光あらせたまえ。またかくして，汝の敵を征服したまえ。誉と能力と栄光とは，ときはかきはに神のものなればなり。」

父なる神よ，サタンが支配の力を持ち，サタンの軍勢が汝の業を滅ぼさんとするこの苦難と悪の時代にありて，我らは御子が「その聖徒らを支配し，その真中にありてこれを統治せん」と汝が命じたもうたことにより，力を得，慰めと勇気を与えられたるなり。我らは主が我らの真中にありて支配したもうことを知り，その恵みに我らは汝の聖きみ名をとこしえにたたえんことを証するものなり。

汝が約束したまいしごとく，汝の聖徒らに刃向かうやいばは栄ゆることなく，何人にても声を挙げて聖徒らに逆らう者は，主の時節至りて言い破られんことを我らはおぼゆるなり。

我らの神よ，汝がこの目的のために挙げたる賢き人々の手によりて合衆国の憲法を制定せしめたもうたことに感謝し奉る。この神聖な文書において保証されたる自由，権利，特権に感謝し，これらがとこしえに永らえんことを祈り奉る。この国の頭たる者の心に我らと子孫のためにこの自由の制度を維持する望みと決意を抱かしめたもうよう求むるものなり。願わくは国の行政府，立法府，司法府を祝福したもうて，各々その分野において賢明に勇敢に機能を果たさ



神殿の花嫁の部屋

写真版権＝1972年末日聖徒イエス・キリスト教会大管長の協力による。

せたまい，立憲政府を維持せしめたまえ。

父よ，汝の忠実なる聖徒は今や地のあらゆる国々にあるなり。我らは彼らの物心両面の幸福に深い感心を寄せるものなり。あらゆる民の支配者が聖きみたまの導きを受けあらゆる人に正しい自由の権利を与え，汝の前に正当とせらるる自由を与える政体を採るようしむけたまえ。

主よ，願わくはあらゆる地に住む汝の聖徒に我らの宣言，すなわち「われらは，王，大統領統治者，長官に従うべきを信じまた法律を守り，敬い，支うべきを信ず」を厳格に守る望みと決意を抱かしめたまえ。願わくは彼らが善良にして義なる道を選びてさらに義の業を進め，「今ある権力に服従し，統治すべき権能を持ちてすべての敵を脚下に踏みつくる者の統治する時の至るを待」たしめたまえ。

我らの心は世の邪悪とあらゆる国に満ちたる悪のゆえに苦悩し悲しむなり。我らはシオンの若人，次代をになう青年層，時至らば王国の支え手となる者たちのために心より祈りを捧げ奉る。彼らを悪より守りたまえ。罪に陥り，世に打ち負かされることのなきよう支えたまえ。主よ，シオンの若人と我ら指導者を祝福したもうて，彼らを正しく導かせたまえ。

我らは知る。汝の王国は進み行き，次代をになう者たちの群は汝のみ名の証し人として，また汝の律法の教師として，力と栄光もて立つなり。神よ，彼らを守りたまえ。彼らの心を啓発し，彼らの上に与えらるる大いなる仕事のため彼らが自らを備える時，汝の聖きみたまを注ぎたまえ。

大いなる学びの宮なるブリガム・ヤング大学及びそれに携わる者，その他すべての教会の学校，インスティチュート，セミナリーを栄えさせたまえ。教える者，教えらるる者の上に汝の力がとどまり，彼らに「研究と信仰とによりて学問を求め」しめたまえ。

主よ，我らを祝福したもうて汝の命じたるごとく，我らが「互いに王国の教義を教え」得んことを。願わくは我らが勤勉にこれを行ない，それによりて汝の恵みがもたらされ，我らが「理論と原則と，教義と福音の

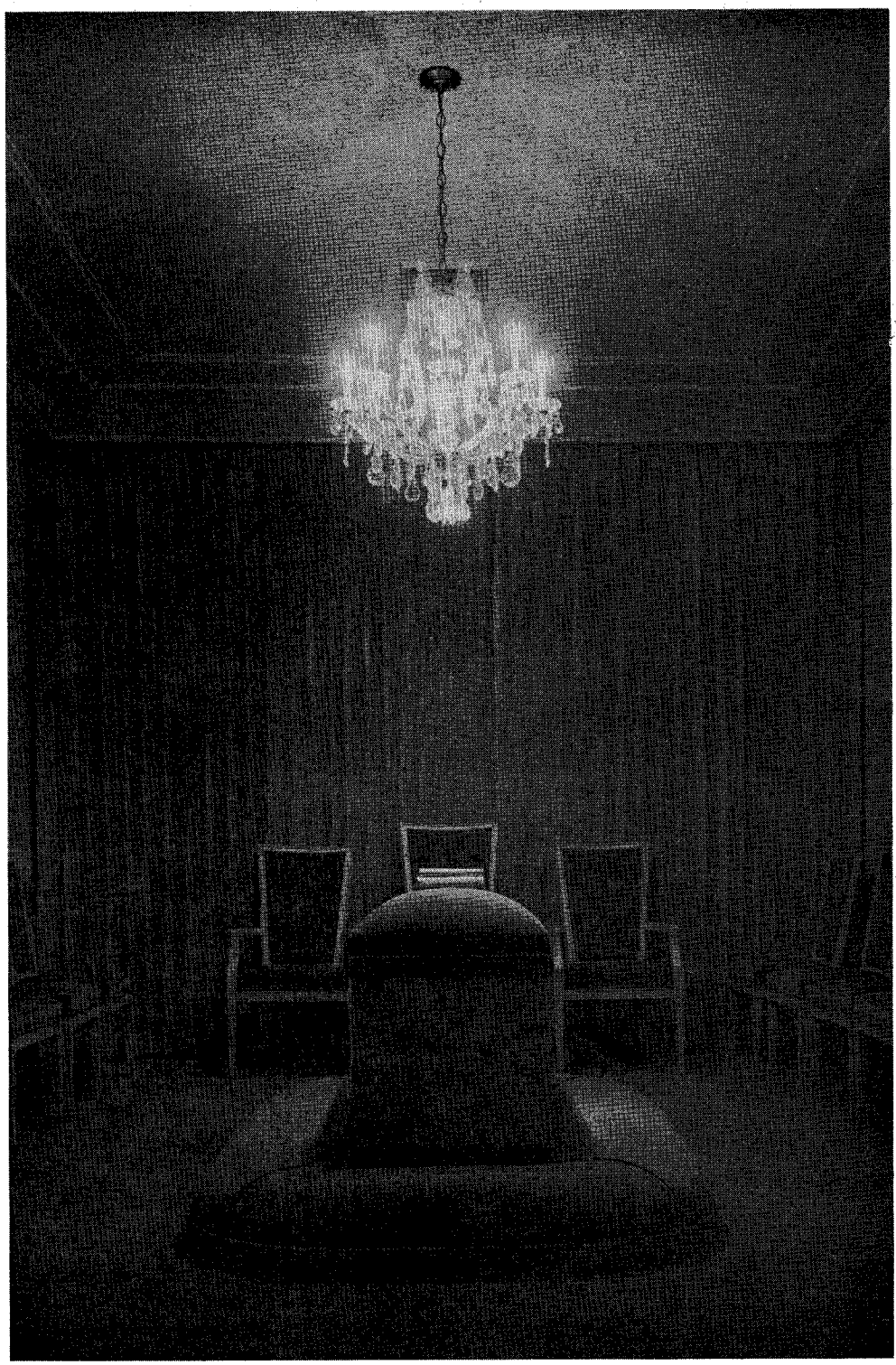
律法と，神の王国に就けるすべての事が更に完全に教えら」れんことを。

あらゆる学究の分野で教え学ぶ者が霊にかかわる知識により心を照らされ，彼らが他のいかなる所で得るものにもまさる祝福と知識と学問を求めんため，宮居にもうでさせたまえ。

我らの父よ，我らは汝に感謝し奉る。汝の聖徒らのうち恵まれぬ者，不幸な者に関心を寄せるよう命じたもうことを。汝は我らに命じたもうて，すべての人が地を従わせ，顔に汗してパンを食すべきことを知る。さりながら我らは不幸な者，常に自らを養えぬ者に心を注ぎ居るなり。

汝がしもべらに霊感を与えたもうて，教会の福祉プログラムを定めさせたまい，困窮者，不幸な者が自尊の念を失なうことなく助けを与えらることに無上の感謝を捧げ奉る。世界にあまねくステーキ部と伝道部が急増する昨今，我らは心より祈り奉る。すなわち汝のしもべらが汝のみこころにかない，汝の霊感を受けて，この教会の福祉プログラムを進展せしめ，かくしてあらゆる点において完全なものとなり，あらゆる地に住む汝の民への助けと恵みが集められんことを。

プロボ神殿　結び固めの部屋



写真版権　1972年，末日聖徒イエス・キリスト教会大管長の協力による。

聖なる父よ，汝の導きとみたまを求め奉る。汝の民が汝のみ手のうちにあって助けを得んことを。我らは汝が下したまいし原則につき従わんことを願い奉る。すなわち，苦難に出会う者が，己の力の限りを尽くし，知恵，指導力，この世の富に恵まれし者が才能と財力とを提供し我らことごとくが父なし子，やもめに力を尽くし，かくして真の兄弟愛のきずなで結ばれ，我らが世の罪の汚れに染まず，これすなわち汝が言いたまいしごとく清い信心と汝の聖きみ顔の前に汚れなく立つこと能うよう願い奉る。主よ，汝のしもべらを祝福したもうて，地上における汝の業の成長発展に関するあらゆることを啓示したまえ。

永遠の父なる神よ，我らの口より出でたるこれら讃美と感謝と願いの言葉を受け入れたまえ。我らの叫びを聞き我らの心の思いと関心とを解したまえ。我らは万物に汝のみ手のあるを知り，汝に仕えんことを願い，汝の戒めを守り，王国にて汝と共に住まわんことを願うなり。

汝のみたまのささやきに導かれ，汝にこの神殿を建つるは我らが特権なり。今や我らは汝の聖き宮居として汝に差し出すものなり。

汝が下されし様式に従い，かつてのしもべらの歩みし道に習いて，汝の御子の神権の権能により，我らはこの神殿を主なる汝に奉献し奉る。

我らはこれを生者と死者のバプテスマの家，エンダウメントの家，結婚の家，義の家として奉献し奉る。

我らはへりくだりて，汝がこの建物を受け入れ，汝が来たりたもう宮居として恵みを注ぎ，汝のみたまがすべてのことを導きたまい，汝に受け入れらるるものとならんことを祈り奉る。願わくは汝のみたまと恵みがここで儀式にたずさわるあらゆる者の上にとどまり，また導きがあり聖き精神が汝の聖き宮居なるこのあらゆる部屋にみなぎらんことを願い奉る。もうでるすべての者が清い手と心を持ち，彼らが信仰を築きあげ，平安と汝のみ名をたたえる気持を持ちて退出し得んことを願い奉る。

我らは宮居の建つ敷地と周囲の敷地を奉献し奉る。フオント，儀式の部屋特に結び固めの部屋を奉献し，これらが聖く保たれ，汝がこれらを守り，汝のみたまがもうでる者たちを輝かしたまわんことを願い奉る。

我らは基礎より塔に至るあらゆる部分を奉献し奉る。あらゆる破壊の力，大暴風，嵐より宮居を守りたもうよう祈り奉る。

我らはのちにつけ加えらるべき歩道，装飾，樹木，植物，花植込みを奉献し奉る。願わくはこれらが周囲に美と芳香を添えんことを。

あらゆる機械を守りたもうて常にこの聖き宮居に似つかわしき機能を果たし得んことを願い奉る。

ここで行なわれるすべてがことごとく汝の栄光を表わし地上における汝の王国の建設に資するものたらんことを願い奉る。

我らはここに，汝と汝の御子と汝の聖きみたまの住いとしてこの神殿を奉献し，この献堂式とこの聖き宮居にて我らが行ないしこと，また将来行なうことが汝によりて承認されんことを願い求め，我らはこれを主なる汝に差し出すなり。

王座に座したまい，生きてましまし万物を支配したもう我らの父祖の主なる神よ，今もとこしえにも汝の聖きみ名に栄えあれ。

汝の唯一の御子，主イエス・キリストのみ名によりて願い奉る。アーメン。

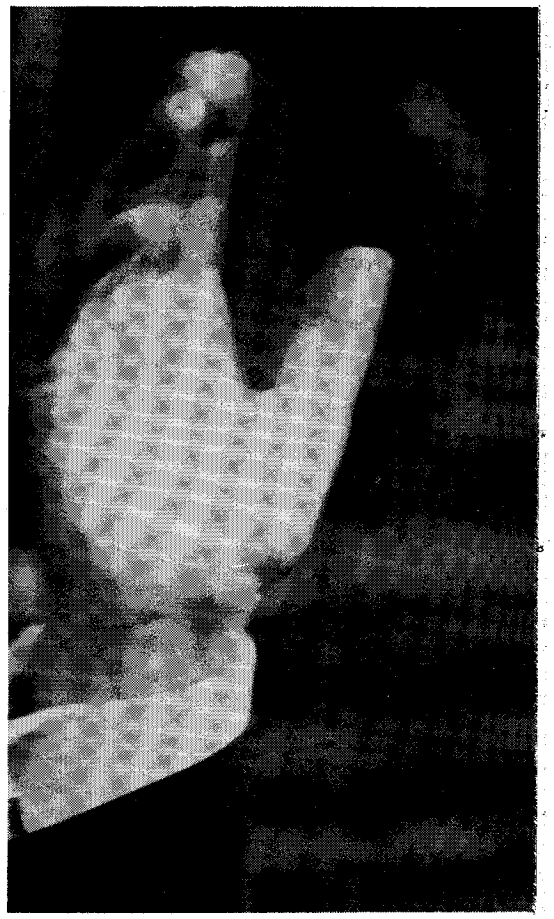
1，「神と子羊　ホザナ！ホザナ！ホザナ！アーメン！アーメン！アーメン！」

この賛美の言葉が聞かれる機会は数少ない。カートランド神殿やその他最近建てられた神殿の献堂式で合唱されている。

宣教師の伝えるメッセージ

福音のおとずれをのべ伝えるには忍耐が必要である

十二使徒評議員会会員
ヒュー・B・ブラウン



宣教師と伝道については今まで多くのことが述べられてきている。

私の生涯にとっても，伝道は私が第一に愛したものであり，18年前に英国で伝道した時に起きたいくつかのことをよく思い出す。その1つをお話しよう。

私は，ある家を幾度か訪問したが断わられ，二度と訪問して欲しくないと言われた。しかしそれでも私は何回となく訪問したい気持に駆られた。ある時，その家の前を通り過ぎようとすると，中へ入ってもう一度きっかけを作るべきだという強い気持にかられた。私は英国式のドアの大きな真鍮製のノッカーをたたいたが，なんの応答もなかった。居間では，1人の婦人が編物をしているのが見えたので，そのノッカーをうるさいほどたたいた。その婦人は出てこず，私は裏口へまわった。裏口の戸にはノッカーがなかったので，自分のステッキ（当時歩く時に使ったもの）でどんどんたたいた。本当に家中に響くほどであった。

まもなくその婦人は顔を出したが，その当惑ぶりに私はおもわず小さい頃農場で，卵をだいている鶏を巣の外へ追い出した時のその鶏の姿を思い出した。（農場で働いた方はおわかりだろうが）卵を抱いているめんどりを巣から追い払おうとすると，めんどりは絶えず羽をばたつかせてあらぬ方へ走るが，この婦人が戸口へうろたえた姿で現われた時は，まさしくそんな感じであった。

私はあやまった。「申しわけありません。お邪魔した上，会ってくださるよう強いてお願いしたりして本当に申しわけないと思います。でも奥さん，私は，1万キロものかなたから，主があなたに伝えるよう望んでおられるおとずれを携えてやってきたのです。主はあなたにそのおとずれをお与えになるため，このように私をおつかわしになったのです。私はあと数日でカナダへ戻ります。それで，主があなたに知ってほしいと望んでおられることを私はお伝えしなければならないのです。」

その婦人は「主が私におとずれを送ってくださったですって」と言った。「そうです。その通りです。」私は答えた。

私は婦人に，福音の回復と教会の組織，そして回復について話した。彼女は私の話に非常な感銘を覚えた。私はその家を去る時にその婦人にこう言った。「お騒がせしてすみませんでした。でも私がここへ来た時に，主のおとずれを伝え，私に与えられた使命をどうしても果たしたいと思いました。またお会いする時が，きっとあります。その時，あなたはこう言って下さるでしょう。『あの時裏口へまわってくれてありがとうございました。私を愛し，主のおとずれを携えて来てくれて本当にありがとうございました。あなたが帰

ったあと，私はとても自分を押えきれませんでした。どういうわけかと考え，不安になり心配しました。とうとう私は伝道本部へ行って幾種類かの印刷物を手にし，それを勉強しました。そうして，家族と一緒に教会の会員になりました』と。」

それから10年後，私はまた英国に行った。このたびは軍人としてであった。集会のあと，1人の婦人が2人の大きな娘を連れて来てこう言った。「何年も前に，あなたが主のおとずれをもって私の家の戸口に立って下さったことを，神様にそしてあなたに感謝しています。私と娘たちは教会に入りました。近いうちにユタへ行きます。本当に神様に感謝しています。あなたが神様のおとずれを携えてきて下さり，主のみ名によってそれを私に伝えて下さる勇気と，忍耐と信仰とをもちあわせていて下さったことを感謝しています。」

兄弟姉妹，私はこの伝道のみ業が神聖なものであることを証したいと思う。心の底から全身をもって，それが神のみ業であることを私は知っている。福音が回復されたことを知っている。私は，教会を導く者が主より霊感を受け，導かれていることを知っている。私は，福音が「ころがり出て」全地を満たすことを知っており，また私たちが来世で1つになり，この世ではたじろぎながら試みた偉大な業をそこで遂行する日を心待ちにしている。

皆さんにこのあかしと私の祝福を残したい。ここにおられるすべての人，聞き入っているすべての人，実にいたるところの人々に祝福があるよう神に祈るものである。父なる神よ，この人々を祝福したまい，伝道の精神をよく悟り全世界にイエス・キリストの福音を広めるのに，精出して献身するようになさしめたまえ。

この証と，主のおとずれと，祈りを，へりくだってイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

部　屋

エドウィン・グリーンロウ・サップ

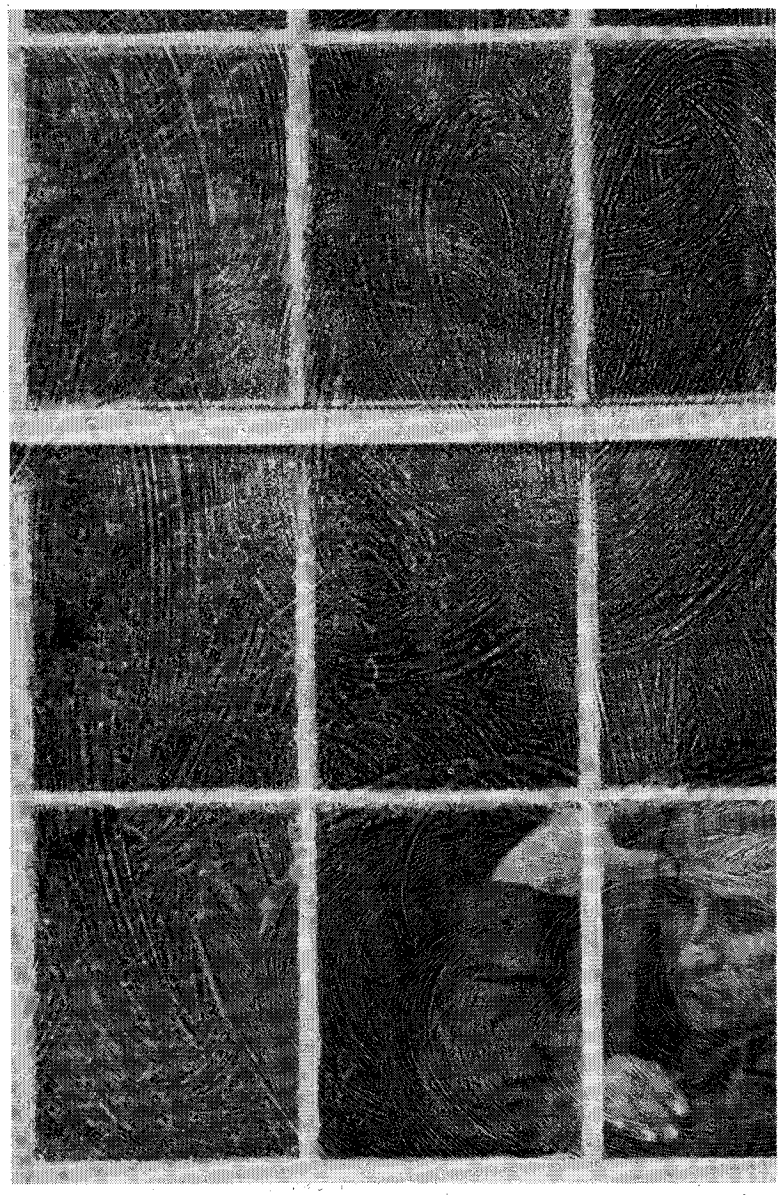
深夜だった。風が大勢の妖精たちの憤怒を叩きつけるような叫びを上げて，二重窓に吹きつけていた。さらさらとした粉雪を，入れるまいとする人間の努力を無規して床の上に吹き込んでいた。深夜，北極の太陽は水平線に低くかかっている。

吹雪と沈むことのない太陽の光との不思議なもやが，部屋の中の電気の明りと混じり合っていた。壁には，遙か遠くの土地の絵がかけられ，軍隊の名簿もあった。近くのアラスカの岩だらけの浜辺で拾った手吹きのガラス製漁業浮子の神秘的なかすかな光を通して，日本が手招いていた。古いテーブルの上には，よく読まれ愛された故郷からの手紙が静かに置かれている。

アラスカにあるこのアメリカ空軍の遠隔基地の一室では，風のうなりをよそに，孤独の静けさが支配していた。

その中尉は椅子の背にもたれ，脚を傷だらけの机の上に投げ出していた。1週間後には彼はこの部屋を去ることになっていた。5千マイルの空を飛んで妻のもとへ，そして1年間の悲嘆とその成果をこの部屋の次の主に残して。傷心とそのもたらすもの。あの陰うつな島に到着して間もなく，彼はプロテスタントの従軍牧師としての責任も余分に引き受けた。その責任とは，この基地の軍人の宗教的な相談にあずかり彼らとこの近辺に住むエスキモーの家族に日曜の礼拝を行なうことであった。従軍牧師として4つの基地を巡回せねばならず，また自分でアンカレッジに出向いて月例報告をしなければならなかったので，中尉として自分の部下と過ごすのは5回の日曜日のうち1回だけだった。しかし部下たちには待つことのできない問題が多くあり，そこで中尉は，絶え間なく増大する心配の負担をかかえながら，相談や助言を与えて来た。

妻が他の人を好きになってしまった軍曹，家族から勘当されてしまった兵隊，涙ながらに「どうして私の子は死ななければならなかったのか」と尋ねる若者……。中尉の心の中には，悲しみの暗雲の中に秘かに刻まれた人たちの名前がある。彼は助けようとした，助言，赤十字，電話の使用許可，司令部への帰国申請などを通して。彼の助力は感謝されてきたがしかし彼はそれがいかに不十分なものであったかを知っ



サップ博士がアメリカ空軍のアラスカ基地にいた時，妻のイラジーンはテキサス州サンアンジェロで改宗した。1カ月文通したり長距離電話をかけたりした結果，博士はここに記載されたような改宗を経験し，1965年8月帰還してバプテスマを受けた。現在チェサピークステーキ部（メリーランド州）ボーウィーワード部の書記をしている。

ていた。彼の助言には何かが欠けていたのであった。

しかしそれでも，彼はとどまっていなくてはならなかった。とどまって苦悩と直面しなければならなかった。家庭と人生もまた彼にとって少しずつ変わっていったのを感じながら。彼は思うのだった，この部屋はなんと彼の魂に似ていることだろう，過ぎ去った日は苦くまた甘い思い出に満ちていて，そして今はもう何もありはしない。

もはやもとの彼に戻ることはないであろう。何人かの宣教師はそのことをよく知っていた。妻は電話や手紙で熱心に彼の賛成を求めてきた。そして夫の愛とも苦痛ともつかない同意を得，バプテスマを受けてモルモンと呼ばれる不思議な新しい信仰に入ったのである。彼は見つめていた。遠く隔たり，彼女に及ぼす力もなく，むなしく妻が教会員になるのを見守ったわずかの月日の微妙な変化を，彼女の信じる真実への奇妙な確信を，聖句によって解き明かす観念を，そして，お互いに理解し合う共通のきずながもう存在しないのではないだろうかと思うようになった恐ろしい心の変化を直視してきた。悲嘆，これが今では彼の人生なのだろうか。彼は一心に努めたが部下との戦いに敗れた。目的はあるにしてもリボンの与えられない戦い。

彼はふいに椅子を押しやり，ベッドのかたわらのテーブルを凝視した。そこには彼が従軍牧師に頼んでアンカレッジから空輸してもらった新しい信仰に関する参考書が山と積まれている。そしてそのかたわらに使い古された聖書に1冊のモルモン経が置いてあった。そのモルモン経のまだ新しい装訂が他の本と鋭い対象をなしていた。その赤い線のいっぱいひいてあるモルモン経は6カ月前に彼の妻から送られてきたのであったが，ほとんどすりへっていなかった。彼の目はテキストを捕えた。大学で哲学のクラスが彼に教えたものは何だったのだろうか。「信仰とは積極的に信ずることである」

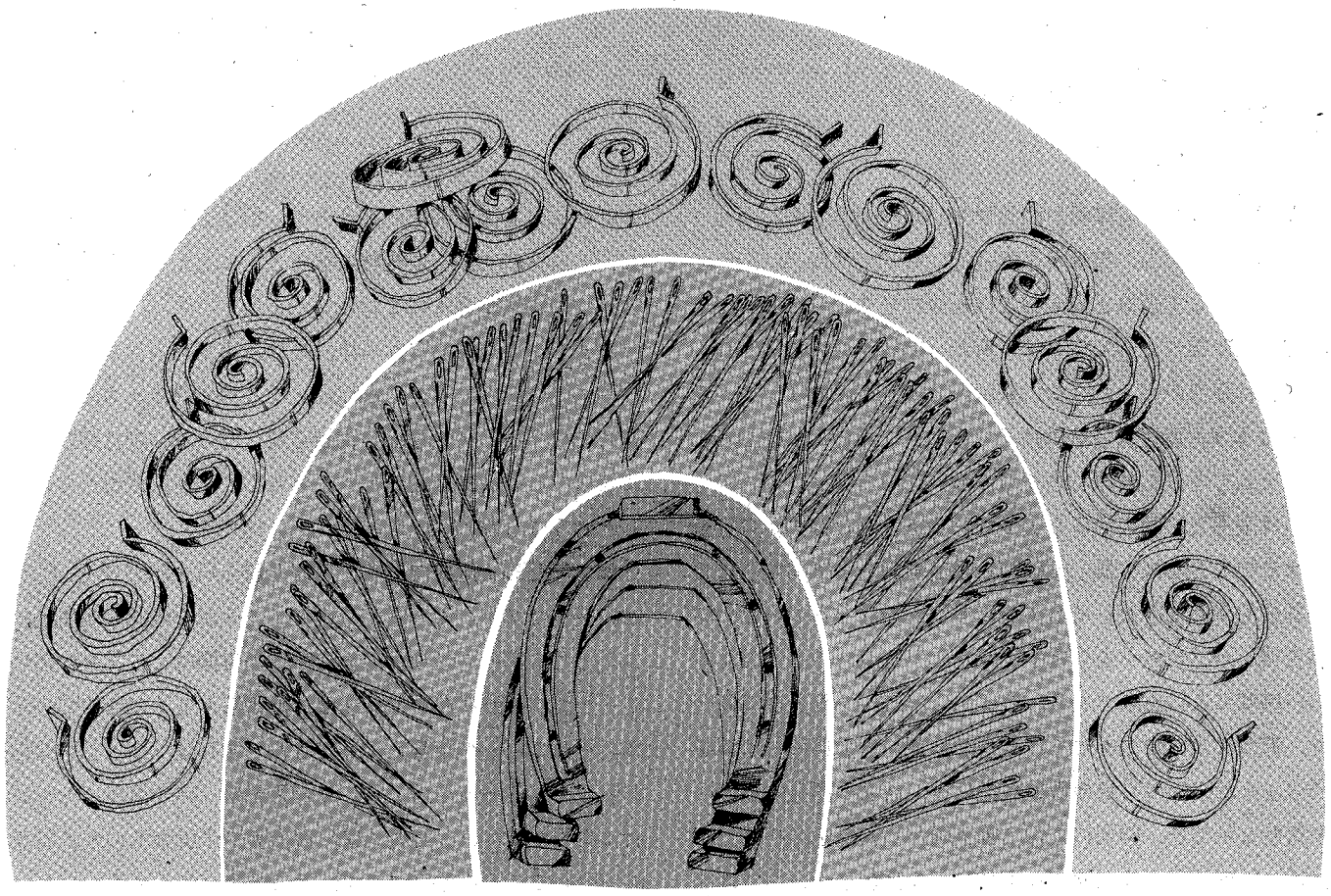
「私は神を信ずる」彼は自分に語りかけた。「しかし私には理解できない。どうして妻はこのモルモンと呼ばれるものを受け入れ，私たちの生活にこんなに大きなくさびを打ち込んだのだろうか。両親は涙にくれている。友人はあざけり，私は屈辱を受けている。一体，どこに救いを求めればいいのだろうか。私が導かなければならないのに。」

必死になって悩んでいるうちに，彼はあることに気づいた。こんなにも激しい動揺を彼の人生にもたらしたその本には1つの約束が含まれていた。

「またこの記録を受ける時，それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば，神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。」（モロナイ10：4）

何と輝かしい約束であろう。何と驚くべき約束であろうか。彼は今までどんな答えが返ってくるかを怖れるあまり，あえてこの試みをしなかった。今彼の信仰はこの試みに追いこまれた。神が存在するならば，神は答えてくださるであろう。そしてもし神が答えてくださるとすれば，はたしてなんとおっしゃるだろうか。もしその答えが「いや違う，その教会は真実ではない」であれば，彼は妻や子供たちのためになに一つしてやることができず，彼らを失ってしまう。しかしもしその答えが「然り」であれば，今まで彼が学び受け入れてきたことはすべて価値を失ってしまう。苦悶と約束，もはやそれから逃避することはできない。彼は涙がとどめなく頬に流れるままにひざまずいて祈った。戸外は深夜であった。しかし内部では，新しい日がまさに始まろうとしていた。

あの部屋は今では記憶の中にあるにすぎない。その四面の壁は別の人間を慰めているかもしれないしあざけっているかもしれない。しかし中尉はすでにそこを去ってしまった。彼はあの夜そこで力強く生きる道を見いだしたのである。ひざまずいて祈り，神がまことに生きてましますことを発見した。彼は生を受けていることの目的，成長することのすばらしさ，進歩することの喜びを理解するに至ったのである。妻と共に彼は人生の一筋の細い糸を見つけた。それは彼が夢見ていたよりも完全で愛に満ちた固いきずなに編み合わせていったのである。最後まで堪え忍ぶことのできるきずなへ（マタイ24：13参照）



おのれを欺く

十二使徒評議員会会長

スペンサー・W・キンボール

数年前，私はブリガム・ヤング大学の初代学長であったカール・G・メーザーの次のような言葉に遭遇した。「他人を欺く者は低劣であるが，おのれを欺く者は愚かである。」この言葉に私ははっとさせられた。

また，ヒルトンホテルチェーンのコンラッド・N・ヒルトン氏は同じような考えを述べている。「あなたが，この世の中で決して愚かであってほしくないと願う者が1人いる。それはあなた自身だ。なぜなら，これほど愚かなことはないからである。」

ヒルトン氏は，約5ドルの値の丸鋼（鋼材の一種）について話している。その同じ5ドルの鋼材は，もしそれを加工して馬の蹄鉄を作ると，10ドル50セントのものになる。もしその鋼材で針を作れば，3,285ドルになる。またもしそれが時計の平衡バネに転ずると，25万ドル以上の値打ちのものになる。

鋼材は山から掘り出され，別の物に作り替えられる過程で手がけられただけ値打ちが出ていることは明らかである。何に作られるかによってその価値の大きさが決まるのである。人もまた鋼材と同じである。あなたも私も，素材のままでいることもできるし，高い水準のものへみがきをかけられることも可能なのである。私たちの価値は自分で作り上げるものによって決まる。

フランスの画家ミレー[1]は，90センチ大のキャンバスに25セント払った。ミレーはまた，絵筆と絵具のためさらに50セント使った。そして，たった25セントの値のカンバスに，画家としての天分を余すところなく発揮し，アンジェラス（晩鐘）の名で知られる絵を世に出したのである。その絵は，105,000ドルで売買された。換言すれば，75セントの値の素材に，霊感，能力，熱意が結び合わされて，104,999ドル25セントの利益を得たわけである。

若い時に長い間自分のエネルギー，時間，努力を気まぐれに浪費して，後になってそのことに気づいた人々に，私は幾度となく話しかけてきた。その人々は常に嘆いてこう言った。「私はなんと馬鹿だったんだろう。なぜもっと早く，人に仕えることの喜びに気がつかなかったのだろうか。なんと長い年月を浪費したことか。私は自分を欺いてきたのだ。」

専門家に多額の報酬を支払って，その忠告をただないがしろにしている人や，薬の処方に高額を払って，それを下水管に流している人がいるのを知っているだろう。このような人々は，幸せな生活へ向けておのれを用意するすばらしい機会に背を向けている人と同様に，無慈悲にも自分自身を欺いている人ではないだろうか。

ほかにもおのれを欺く方法がたくさんあ

る。悲しみや憎しみの毒にあってひるむ時に，両親あるいは教師に，監督に怒りを抱き，自分を名もない者にしてしまうことがある。憎まれた者は，憎んだ者の悩みに少しも気づかずに去ってしまうが，一方憎んだ者は自分を欺くことになる。箴言10章18節にはこう記されている。

「憎しみを隠す者には偽りのくちびるがあり，そしりを口に出す者は愚かな者である。」

また，自分は無神論者だと称して，道徳的責任から免れようとする人がいる。おのれを欺くということは，何も当世に限ったことではない。幾千年も前に，詩篇の作者は次のように語っている。「神は天から人の子を見おろして，賢い者，神を尋ね求める者があるかないかを見られた。」またこう書いている。「人はみなひとしく堕落した。善を行なう者は一人もいない。」そしてその時に著者は心からの懲らしめを胸に「愚かな者は心のうちに『神はない』と言う」と語っている。（詩篇53：1—3参照）

「愚かな者は心のうちに『神はない』と言う」イスラエル人の子孫は鋳物の子牛（出エジプト32：4参照）に夢中になった。鋳物の子牛は金で作られていたが，聞くことも，かぐことも，見ることも，考えることも，感じることもできなかった。イスラエル人の子孫は，その宝物に心を奪われたがその見返りに何も得られなかった。何と愚かな人々だろう。なんと盲目な人々だろうか。

自分を欺いたことを深く悔恨している大勢の人が私のところへやってくる。高等教育を受ける妨げになるからとか，たくわえをしてからとか，その他多くの理由をもとに，結婚を引き延ばしてきた1人の若い男性がいた。とうとう結婚した後で彼はこう語った。「今の生活はとてもすばらしいものです。どうしてこんな祝福にあずからずに長い年月を浪費してしまったのだろうか，と。私はつまらないことで，大きなものを失っていたのです。」

また未婚のまま子供をもった女性がいた。彼女は，子供の世話や病院の費用を考えて，また人に知られたくないために子供を手放してしまった。歳月が過ぎ，子供を取り戻そうとしたが失敗に終った。そして彼女は結婚した。1，2年たっても子供は生まれなかった。子供ができないかもしれないという彼女の心配は，医者の言葉でうらづけられた。彼女は泣いた。彼女には子供ができないのである。この女性は，母親になる一度の機会を，なんとたやすく売り渡してしまったことか。

互いに心から愛し合っていると自分たちではそう思っている2人の若い男女がいた。男性の方は，教会の標準を守った生活をせず，神殿の推薦状を受ける資格はとてもないと2人で決めていた。永遠のものであるべき結婚は，市民結婚に終わった。年が流れ，子供が生まれて，その家庭に花を添えた。だが宗教活動は何もなく，霊的な慰めもほとんどなく，その家と2人の結婚生活には暗い影が忍び寄り，うるわしい家族関係にも破綻が訪れた。

また，長い間拒んだ後に福音を受け入れて，ついにすばらしい喜びを見いだした人々もいる。そのような人々は異口同音に語る。「私たちは宣教師をずっとにべなく断わってきました。なぜもっと早く聞こうとしなかったのかと思います。今私たちが享受しているよりずっと幸福な日々を，長年送れたはずでした」と。

私には，教会の会員でない1人の良き友人がいた。彼は世界中で広く吸われている毒草（タバコ）について，ほとんど教えられていなかった。友人はそのとりこになってしまった。この毒草は友人を飲みこんでしまった。何年も続けざまにタバコを吸っているうちに，せきがひどくなり，大きな苦痛がやってきた。数週間病院のベッドにふし，ついに新しい墓ができて，その上に花が飾られた。友人は良い人だった。立派で，誠実で，全く正直な人だった。私が思うのに，この友人は決して仲間を欺くことをしなかった。だが，何と自分自身を欺いてしまったことだろうか。セネカ[2]の時からシェイクスピアを経て現在まで，「なんと馬鹿者ばかりでござろうか，人間というものは[3]」という言葉がこだましてくる。

一体，人はおのれを欺くのを正当化できるだろうか。愚劣なもののために幸せな生活をあとまわしにするのは好機会を否定することになる。永遠の誓約ができる時に市民結婚をすることは，未来に対し無分別な機会をとることになる。指導者に恨みを抱いたり，感情を発散させて，教会の活動をやめるのは，おのれを欺くことになる。メーザー博士は言っている。「おのれを欺く者は愚かである。」

私たちの多くは，主に対して愚かである。

愚かな者のみが，陶工の代わりにつぼを拝し，植えた者の代わりに木を拝し，最大の化学者である神の代わりに金を拝し，魂をもたらした者の代わりに魂を拝し，創造主の代わりに，創造された物を拝するのである。あまり価値のないものを追い求め，主の教えをつまらないものとして無視する私たち人間は，なんと馬鹿者ばかりではなかろうか。

約20世紀以上もの昔，主は偉大な予言者イテルを通じて言われた。「愚かなる者はあざける，されど後になりて悲しむ。われが謙遜なる者に授くる恵みは充分なれば，かれらは汝らの弱点に乗ずることなし。」（イテル12：26）

この主の恵みと愛をいかにして受けることができるだろうか。聖典には，人の愚かさを治療する方法が記されている。予言者は私たちを知恵ある者に導いてくれる。偉大な教師イエス・キリストこそはすばらしい模範であり，すべての真実の勧告の源である。ルカによる福音書にはこう記してある。

「……ああ愚かで心のにぶいため，予言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

キリストは必ず，これらの苦難を受けてその栄光に入るはずではなかったのか。

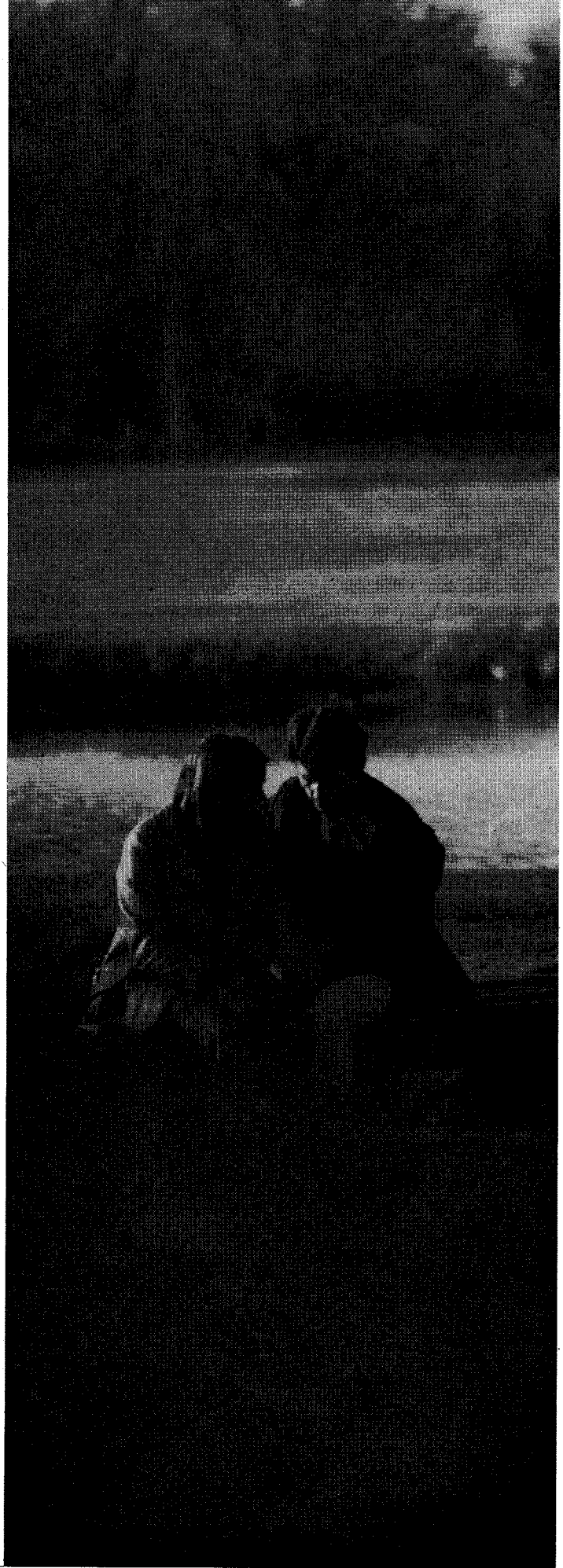
モーセやすべての予言者からはじめて，聖書全体にわたり，ご自身についてしるしてある事どもを，説きあかされた。」（ルカ24：25—27参照）

創造主のかたちに似せて作られた神の息子娘であるあなたが，主の姿に心をとめ，ひとり子（ヨハネ1：14，18）の模範にならって各自の霊を訓練し，形成するよう勧めたい。もしあなたがたがそうするなら，喜びが永遠にあなたがたに伴い，いかなることがあっても，決しておのれを欺く心配はなくなると主は約束しておられる。

1．ミレー，ジャン・フランソア（1814～1875）
2．セネカ，ルキウス・アナエウス
ローマの政治家，著作家，ストア哲学者。B．C．4—A．D．65。彼の悲劇はエリザベス朝の演劇に影響を与えた。
3．シェークスピア作，「真夏の夜の夢」第3幕第2場（福田恆存訳による）

なぜ清く あるべきか

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・パッカー



けさのこの大会に力強いみたまが共にあることをどなたも感じておられることと思います。ここにこの微妙でむずかしい問題を語る時，これまでになくみたまの力による助けがあるよう切に求めたいと思います。

きょう，この会場には若い方がたくさん見えておられます。私は皆さんに，しかも特に十代の皆さんに話したいと思うのです。なぜ清くあるべきか——このテーマにあなたがたは大きな関心を持つことでしょう。

私はこのことを，深い敬虔の思いをもって話したいと思います。それに驚く人があるかもしれません。なぜならこの問題はとりわけよく話の種になり，歌に歌われ，冗談の種にさえなっているからです。ほとんどの場合，それは慎みなく語られています。

この最もむずかしい問題についてあえて語る時，人に不快を与えないよう，慎みを保ちたいと思います。

若人の皆さん，私の話はあなた方にとって非常に重要なものです。皆さんの将来の幸福にかかわる話だからです。聖典を読んだことのない人にとって，耳新しい事柄が幾つかあるかもしれません。

はじめに，この世に誕生する以前，皆さんは天父と共に住んでいました。天父は実在の御方です。実際に生きていらっしゃいます。この地上に生きて，天父の存在を証する人々がいます。私たちはこの大会で，天父のしもべたちのその証を聞きました。天父は生きておられます。私はそれを証します。

天父はそこで皆さんを知っておられました。皆さんを愛しておられたので，主は幸福と永遠の進歩を願われました。神は皆さんが自由に選び，正しい選択の力によって成長し，御自身と同じようになることを望まれました。そのようになるために，私たちは神のみまえを去らなくてはならなかったのです。学校に行くために家を離れるのと似ています。1つの計画が示され，全員が天父のみまえを離れてこの世の生活を経験することに賛成しました。

私たちがこの世に来るに際して，2つの大切なことが用意されていました。1つは，私たちは神の姿に造られた肉体を

受けるということです。肉体を通じ，それを正しく制御することによって，私たちは永遠の生命と永遠の幸福を得るのです。2つには，私たちが力を増し，霊的に強くなるように試みられるということです。

さて，最初の目的は非常に重要です。なぜなら，私たちに与えられたこの肉体は，将来復活して，永遠に私たちに仕えるものとなるからです。

神の計画のもとに，アダムとイブが私たちの最初の両親として地上に送られました。彼らは，この地上にやってくる最初の霊の肉体を用意することができました。

私たちの肉体には，神聖な創造の力が備えられました。さながら火に，他の物に火をつける力があるのと同じように。この賜物は，ただ神聖な結婚のきずなの中でのみ用いられるべきものでした。この力を行使することにより，肉体が創造され，霊がそこに宿り，新しい人間がこの世に生まれるのです。

この力は善きものです。それによって家庭が作られ，維持されるのであり，幸福の土台は家庭生活の中に見出されるのです。それは神聖で重要な力です。私は友である若人たちに繰り返して言います。この力は善きものであります。

十代の皆さんも，アダムとイブのあらゆる息子，娘と同様この力を内に持っています。

創造の力，言うなれば生殖の力は，単に神の計画に付随する事柄ではなく，その計画の基礎をなすものです。この力なしに，計画は実施できませんでした。この力を誤って用いることは，計画を崩壊させることになります。

皆さんがこの世の生涯で得ることのできる幸福の多くは，神聖な創造の力をどのように使うかにかかっています。若い男性は父親になることができ，若い女性は母親になることができるという事実は，皆さんにとって最も大切なことです。

この力は皆さんの中で成長し，自分の伴侶を求めさせ，その人を愛し，自分だけのものにしたいと思う力を与えてくれるのです。

繰り返し言いますが，生命の創造において働くこの力は，神聖なものです。皆さんはいつの日か，自分の家族を持つことができるでしょう。そして，この力を行使して，子供を自分の所へ招くことができます。言い換えれば，幼な児が皆さんの子供となるのです。自分自身の形に似せて創造された幼な児が……。力と影響と機会をもたらす1つの家庭を築くことができるのです。しかしそれには大きな責任が伴います。

この創造の力には，強い欲求と衝動がつきものです。皆さんは，自分の関心や態度の変化の中に，それらをすでに感じられたことでしょう。

十代に入ると，急に少年も少女も興味深い新しい変化を見ます。皆さんは自分や他人の体にその姿，形の変化に気づくことでしょう。また肉体の欲求のささやきをも経験するでしょう。

この創造の力は，少なくとも2面を持たなくてはなりませんでした。すなわち，第1にそれは強くなくてはならず，第2にある程度継続するものでなければなりませんでした。

この力は強くなければなりません。なぜなら，ほとんどの男性は生来，未知のものを追い求めるものです。しかし心の内にそのような力が存在しなかったならば，男性は家庭や家族を支える責任をいやがったことでありましょう。またこの力は継続するものでなければなりません。なぜなら，それは家族生活を結ぶものとなるからです。

皆さんは，まわりにいる動物の世界をみわたして，理解できる年令に達していると思います。この創造の力が束の間であり，ある季節にだけ力が現われるものの中に家族生活は存在しません。

生命が続くのはこの力によるのです。試練や恐れ，失望に満ちた世界は，希望と喜びと幸福の国に変化できるのです。子供が生まれるたびに，世界はいくらか罪のない白紙の状態を取り戻します。

若人の皆さんにもう一度言いたいと思います。皆さんの内にあるこの力は善いものです。それは父なる神からの賜物なのです。他の何物でもないこの力を正しく行使することによって，私たちは神に近い者となれるのです。

私たちは，ささやかではありますが，天父が子供である私たちを治める時に持っておられると同様のものを同じく持つことができます。これよりも偉大な試験の場，学校を想像することはできないでしょう。

そうであるとすれば，教会における結婚が非常に神聖で，重要なことに，何の不思議がありましょうか。これらの創造の力を行使し始める結婚が，注意深く計画され，人生の最も厳粛な一段階となるべきことの理由を，あなたは理解できるでしょうか。主が，結婚式を司る目的で神殿を建てよと言われたことを，風変わりであると思うべきでしょうか。

ここで，私は他のことを皆さんへの警告として話したいと思います。はじめに，私たちの間に天父の計画に反対した者が1人いました。彼はその計画を崩壊させると誓いました。

彼は肉体を得ることを許されず，投げ落とされて，永遠に自分の王国だけに限られることになりました。そして悪意とねたみを持ちました。彼は，創造の力が神の計画にとって鍵とも言うべき重要な地位を占めているのを知っています。

彼は，あなたが未熟なうちや若すぎる時にこの力を使ったり，間違った方法で使うように誘惑すれば，皆さんが永遠進歩の機会を失ってしまうことを知っているのです。

彼は目に見えない世界に実在し，強大な力を持っています。彼は神聖な創造の力を守ることができるように与えられた律法を，その力を用いて，破れと皆さんにすすめるでしょう。

これまでは，公然と人を不道徳へ誘うようなことはしませんでした。ひっそりとかくれて，若人や大人を，神聖な創造の力をいいかげんに考えるように導くのです。神聖で美しいものを，普通の水準に，あるいは俗悪な水準へと落とそうと。

現在，彼の策略は変わりました。彼はこの力を，ただ満足

させるべき欲望であると説明しています。この力を使うには何も責任がいらず，快楽だけが唯一の目的だと言うことでしょう。

彼の悪らつな誘惑は町の看板に見られます。冗談に語られ歌に書かれ，テレビや劇場に現われます。ほとんどの雑誌は皆さんに驚きの目をみはらせるでしょう。御存知でしょうがポルノを扱った雑誌があります。この神聖な力を誤用し汚させようと，公然と邪悪な誘惑の手が伸びています。

私は皆さんに忠告したいのです。次の言葉を忘れないで下さい。

他のだれにも，皆さんの体を少しなりとも触れさせてはなりません。たとえどのような人であっても！そのように言う人は，自分の罪を皆さんにも負わせる人です。私たちは皆さんに，清さを保ちなさいと教えます。

生命に与えられた力を体験せよとすすめる者には，背を向けることです。

そのようなことは現在の社会で皆やっているということは理由にはなりません。

２人が合意の上だからというのも理由になりません。

愛情の当然の表現だと考えることも，正しいことではありません。

私たちは，結婚の誓約によらなければこの神聖な力を正しく行使できないのです。

これらの神聖な力を決して誤って行使してはなりません。

さて，友である皆さんに，真剣に厳粛に話さなくてはならないことがあります。神ははっきりした言葉で，純潔の律法を犯す時には悲惨と苦悩を味わうと言われました。「罪悪は決して幸福を生じたことはない。」（アルマ41：10）この賜物を行使するについて，神は子供たち全員を導く律法を定められました。

神が意地悪で，復しゅうをするために，道徳律を破った者に罪を与えるというのではありません。律法はそれ自体定まっているのです。

皆さんが気高い人生を送るならば，栄光に輝く王冠が待っています。その冠を失うだけでも充分な罰でしょう。まれに私たちは与えられる罰と同時に，罪そのものからも罰せられることがあります。

この会場の中には，すでに罪におちた若者が１人ならずいるに違いありません。若人の皆さんの幾人かは，悪気なしに誘惑にのり，この力を間違って使ったことがあることでしょう。

若い友人たちよ，このことを知って下さい。大いなる清めの力があります。そしてもう一度清くなることができるということを。

もし教会員でないならば，バプテスマの誓約自体が洗い清めを象徴しています。

教会員である人にとっては，苦痛は避けられないにしても確かに可能な１つの方法があります。神のみまえに汚れなく清く立つことができるのです。罪は消え去り，平安を得ることができます。監督のところへ行きなさい。彼がその清めの力の鍵を持っています。

そうすれば，ある日，これらの力の完全な正しい表現を知り，正しい家族生活の中で，それに伴う幸福と喜びとを知ることができるでしょう。ふさわしい時に，結婚誓約のきずなの中で，それ自体結実として子孫を得る愛の神聖な表現に身をゆだねることができるのです。

いつの日か，皆さんは幼な児を腕に抱き，夫婦が天父と協力して生命の創造に携ったことを知ることでしょう。子供は皆さんのものであるため，その時皆さんは自分よりも他人をもっと愛するようになるでしょう。

私の知る限りにおいて，この経験は，自分の子供を持つか他人の子を養子にして自分の家族同様その誓約の中で育てる以外に知ることのできないものです。

皆さんの中には，結婚の祝福を受けない人もいるでしょう。しかしたとえそうであっても，創造の神聖な力は守り抜きなさい。ふさわしい偉大な賠償の力，つぐないの力が存在するからです。

自分自身を愛するよりもさらに深く愛することのできるその幼な児によって，皆さんはまことのクリスチャンとなります。人がまれにしか知り得ない，聖典に言われている「父」という言葉の意味を知るのはその時なのです。そして愛の何であるかを感じ，神が私たちに対して抱いておられる関心を悟ることでしょう。

至高者なる神に与えられる崇敬と誉れと讃美の全称号を意味する呼び名として，簡単な父という言葉が選ばれたことには，大きな意味があるはずです。

皆さんの持つ賜物を大切に守って下さい。幸福がそこにかかっています。今はただ期待し夢見るだけの永遠の家族生活も，天父が創造の力というあらゆる賜物中最大の賜物を授けられたので，現実となってくるのです。それは幸福の鍵です。この賜物を神聖に清く保って下さい。主の命じられた通りに行使して下さい。

若い友人たちよ，この人生には大きな幸福と喜びがあります。私はそのことを証できます。

私は皆さんが愛し愛される伴侶を得る姿を目に浮かべています。皆さんが結婚の聖壇の前で神聖な誓約を交わす姿を心に描いています。愛が成就されて自分の家庭を持つありさまを想像しています。そして子供を得，皆さんの愛が子供と共に成長していく姿を胸に描いています。

私は，心に描くその姿にわくを設けることができません。たとえできても，わくにはめようとはしないでしょう。その姿には限界がないからです。主の律法に従うならば，その幸福には限りがないでしょう。

神の恵みが皆さんの上にあるよう祈ります。天父が皆さんを見守り，支え，この神聖な賜物の表現において天父に近い者となることができるように。天父は生きておられます。神は私たちの父であられます。これらの証をイエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

この記事は，教会の教義を教えるためではなく，読者にとって参考となり何らかの助けを与えるためのものである。

「火葬はいいのでしょうか」

ボブ・パーマー兄弟

個人的には，私は，死体が火葬にされたり（ヒンズー教徒や日本人の間では共通した風習になっているが），（ペルシャ系ゾロアスター教徒が主張するように）はげたかが寄ってきて腐敗する肉体をきれいに骨にしてしまうような聖なる「沈黙の塔」に取り残されたり，その他の方法で処理されるよりは，むしろ地中に，墓下に土葬されることの方を選びます。私がそれを選ぶのは，自分に伝わった伝統のために西欧人として偏見があるからです。しかし，末日聖徒の観点からはそれ以上のことが言えます。

古代から，主の民は死者の体を土葬にする風習を好んできました。聖典ではそれが典型となっています。この伝統は，パウロがローマ人への手紙6章で暗示しているように，死，埋葬，そして復活――キリストの贖罪――，また水に全身を沈めるバプテスマといった福音の教義をきわめてよく象徴しています。死者の体は，永遠の魂にとって大切な一部なのです。それは霊の神聖な幕屋なのです。死者を尊んで，その墓所は賢明に選ばれ，適切に維持されねばならないのです。とはいえ，死者の墓地を決めるのに，地表の構成（地形）が大事であると考える土占いの儒教的教えを正しいとは思っていません。それに，死亡した当時やそのあと，血縁者がどのように死者のことを取り扱っているかによって，死者が生存している血縁者を罰したり，拘束したり，報いたりするなどとは全く考えられないことです。墓は宗教的な宮居ではありません。体は墓から出てくることを想定に理想的な姿で安置されますが，しかし，死者の生命と人格は，墓の中にもなければ，そのまわりにあるものでありません。死者の霊は霊の世界であるパラダイスと呼ばれるところへ行き，そこで復活の日を待つのです。

ジョセフ・スミスがかつてある葬儀で説教した話の中で，死と復活について物語風に述べているのに，私は意義と満足を覚えるのです。

「人が葬られる場所は，私にとっては神聖なものである。これについては，モルモン経典や他の聖典に述べられている。この大陸の原住民にとってさえ，父祖の埋葬地は何にもまして神聖な所になっているのである……。

この地に友人たちを埋葬（土葬）した人々は，その状態が望まれないものと信じていたに違いないと私は思う。エジプトの地におけるヤコブ，ヨセフをみてみよう。彼らがいかに父祖の墓に葬られたいと友人たちに願ったことだろうか。埋葬（土葬）のため，死体に香油を塗り，大集団で旅をするには費用がかさむことを考えてみたまえ。

立派に埋葬（土葬）されないことは，とても悲惨なことだと考えられてきた。古代の予言者が，誰にでも与えることのできた大きなのろいの1つは，その人が死んでも埋葬（土葬）されないだろうと宣言することであった。

私は次のように祈ってきた。『み父よ，私はここで聖徒たちの中にあって死にたいと思います。しかし，もしそれが主のみこころでなければ，私が死んだなら，主よ，その時に私の体をこの地へ連れ戻してくれる親切な友を見いだしてください。また見知らぬ土地で死んだ友人の体を取り集め，ここへ連れ戻し，我々が共に横たわれるようにして下さい』と。

私が望んでいることを話したい。もし，あす私が墓のかなたに横たわるよう召されても，復活の朝，岩が裂け，墓から出て来る前に，私は父と手を打ち合って，『おとうさん』と声をあげ，また父は『おお，息子よ』と言い合えるよう望ん

でいる。

我々はそのように期待できるだろうか。そう，もし我々がいかに生きいかに死ぬかを学べばの話である。我々は横たわる時，復活の朝にいかによみがえるかを期待する。

私がこの興味あるテーマについて示現で見たことを話すとしたら，あなたがたは奇妙に思うだろうか。

示現ははごく平明なものだった。まるでゆっくり起き上がるように，墓から人々がのぼる前に，私は確かにその人々を目撃した。その人々は，互いに手をとり合って，『お父さん息子よ，お母さん，娘よ，おにいさん，妹よ』と呼び合っていた。よみがえるように主の声があげられる時，父のかたわらに横たえられている私が，心にどんな喜びを感ずるか想像してみたまえ。私の父や母，兄弟，姉妹に会い，皆が私のかたわらに立った時，私が皆と抱き合う姿を。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」P.294—296）

これが，死と復活に関する完全な典型なのです。しかし残念なことに，死と埋葬についてのこのような経過が，常に人にとって可能なわけではありません。また，おそらくいつも希望出来ることではないかもしれません。多くの人がひどい恐ろしい死に方をしています。パイロットが撃墜され，捕虜収容所でときどき衰弱して死んでいます。人体が，しばしば，切断されたり，引きちぎられたり，打ちくだかれたり，また，時おり，戦争や，火事，自動車事故などで，完全に跡形もなくなってしまうことがあります。ある人々は海中に葬られ，その体は海の生物に食い尽くされます。すべての人の肉体が，正しい，信仰厚い人の肉体でさえ，すべてが地中深く埋められはしません。ヨーロッパのある所や，アメリカの南部では，地下水線が浅いため，死体を地中に埋葬することができません。そこで，よく納棺したまま地上に安置し，その上へ次々と積み重ねています。

今日の世界にあっては，ある国では法律で土葬を禁止し，火葬を奨励しています。アジアでの非常に人口密度の高いある首都では，墓地は高価な商品であって，途方もない費用がかかります。その地域に居住する教会の信仰深いある会員にとっては，費用がかさんで葬儀や埋葬ができない状態です。そこで，私は，個人的には，香油を塗って土葬する方を選びますし，それがまたイスラエル人が従ってきた型ではありますが，聖典の中にも，教会の神学の中でも，火葬を禁じていないことは明白です。最近のホテル惨事でなくなった1人の韓国の姉妹のように，火でその肉体が破壊されても（火葬）その人は，復活のおり，死者の中から完全な姿でよみがえるでしょう。人類の肉体の重要な要素は，決して失われないし他の生物の霊に属することは許されていません。（「教会の歴史記録」第5巻P.339参照）アルマが述べているように，肉体のどの部分も回復するのです。

「この復活はあらゆる人が全部受けるのであって，老若男女の区別なく悪人と善人とを問わず奴隷と自由人とのへだてなく，一すじの髪の毛さえも失われずに，総身の何れの部分もあたかも今の世にあるようになり，完全の形にかえるのである。……」（アルマ書11章44節）

埋葬よりも火葬を選ぶ末日聖徒が世界中にいることを，私たち皆認識する必要があります。ここに例として，1人の若い日本の末日聖徒で，宣教師を終え，ブリガム・ヤング大学で学んでいる，成績も上位の立派な教会員の見解をのせましょう。

「日本では，よく死体を火葬にしますが，私はこの風習が地中に死体を土葬するよりも確かに清潔であると思っています。火葬したあとは，ただ灰といくらかの小さな骨が残るだけです。でも，地中に土葬した死体が虫やバクテリヤにおかされ，消滅してゆくのを考えてごらんなさい。私にとってはそれはとても不潔に思われます。そのように考えるのは，きっと私が育ってきた環境によるのでしょう。しかし霊が離れれば肉体は生命のない物質です。この肉体を火葬にしようが地中に土葬しようが問題ではなく，それは復活の際回復されるものです。教会の教義に関するかぎり，私は火葬が誤りであるとは少しも思っていません。私は，死者に対する感傷よりも，むしろ生きている者にとって清潔であることをとります。」

また私は，まれには火葬が好ましく，主のみこころとみむねにかなっている（教義と聖約68：4参照）時があると思います。約20年程前，ココアパス族のインディアンの会員，マーク・ジョンソン・ベスト兄弟の死に関係して私の伝道部長が経験したことは，生きた適例です。

ベスト兄弟は，なくなる時に，活発な末日聖徒の1つのグループの支部長をしていました。アリゾナでのベスト兄弟の葬儀へ出席する道すがら，伝道部長は，なぜベスト兄弟が天に召されたのか主がそれを示してくださるように熱心に祈りました。伝道部長が祈っていると，マーク・ジョンソン・ベスト兄弟が，およそ1万人ものインディアンの大きな集団の前面に立っているのを目にしました。マークは，彼らに福音をのべていました。そうしているうちに，グループのまん中に1人のインディアンが立ち上がって言いました。「この男の言うことをきいてはならない。この男はレーマン人ではない。ニーファイ人だ。」そのあとマーク・ジョンソン・ベストは完全な体で立ち上がり「私はニーファイ人ではない。レーマン人だ。私は死んだ時，我々の習慣にならって火葬にされたのだ」と語りました。

伝道部長が，葬儀の行なわれる町に着いた時，ステーキ部長は，頭の痛い問題が発生していることを語りました。マークの種族であるココアパス族は，昔からの習慣に従ってマークを火葬にしたいと願っていました。ところがマークの妻の種族の者は「適切に土葬」することを望んでいたのです。コ

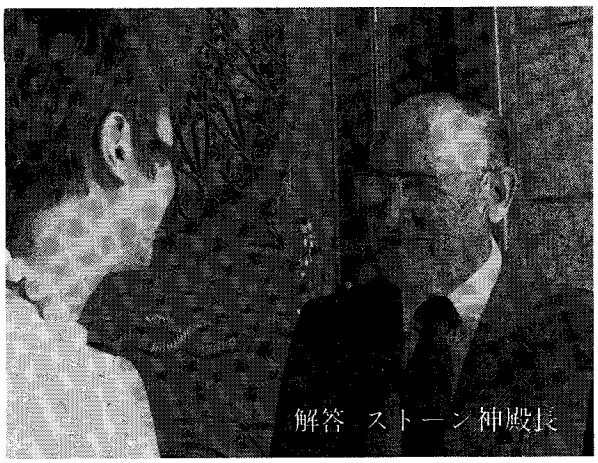
コアパス族の者は，もしマークを土葬にするなら，マークの体は掘り荒されてしまうから，火葬にしたいと話しました。

マークの葬儀の話の中で，伝道部長は夜の間に彼が受けた示現を語りました。これが，火葬の問題について，両種族の満足を図り，それについて，もはや彼らの間には何の紛争もありませんでした。葬儀の後で伝道部長と奥さんは，マーク・ジョンソン・ベスト兄弟が火葬にされるのを目撃したのです。

スペンサー・J・パーマー
ブリガム・ヤング大学アジア学主任教授
前韓国伝道部長

2

「私たちは結婚を計画していて，私も婚約者も神殿へ行こうと考えています。事前に，神殿の儀式がどんなもので，どのように約束し，遂行するよう期待されているのか話してもらえないでしょうか」



自分のエンダウメントやシーリングのために神殿へ入る前に知ることができ，また知っておくべきことがたくさんあります。エンダウメントは，神から与えられる最大の賜物であることを覚えねばなりません。エンダウメントは，どのようにして神のみ前に帰れるのか，そして救いと昇栄，永遠の生命をどのようにして得られるかをあなたに教えてくれます。これらのものは，あらゆる賜物の中で最も素晴らしいものですが，それはただ，もしあなたが神の聖なる宮居で主と交わすよう求められた誓約を守ることによってのみ得られるものです。

次の引用文は，アーチボルド・F・ベネット兄弟の著書「シオン山の救い手たち」(P.213)の中に掲載されている，ジョン・A・ウィッツォー長老の記事です。

「エンダウメントの儀式は，次のように各人にある義務を明らかにさせる。それは，厳しく徳と仁愛の律法を守り，慈悲深く，情深く，寛容であって，清くあるという誓約や約束を守ることである。また，真理をひろめ，人類を高揚させるのに才能と物質的手段の双方をささげ，真理のために献身しつづけるという誓約や約束を守ることである。また，地球がそのままである主イエス・キリストを受け入れる備えができるよう，大いなる準備のために貢献するあらゆる方法を探し求めるという誓約と約束である。各誓約に従い，各責務を引き受け，それらの諸条件を守る忠実さに応じて，祝福が約束され宣言されるのである。」

神殿結婚は，市民結婚とは全く異なっていて，神殿の中であなたがたは，今も永世にも，夫，妻として，合法的に結婚し，結び固められるのです。また，この世と来たるべき次の世に対し，あなたがた双方に，大いなる祝福が結び固められるのです。神殿内での結婚は，あなたがたの永遠の進歩にとって大切な，新しい永遠の家族単位を作る始まりです。この結合の中に生まれてくる子供は「誓約の子」であり，今も永世にもわたる家族の一員となるのです。

もちろん御存知の通り，神殿へ来る前に，監督とステーキ部長から神殿に入るにふさわしいと認められねばなりません。もし，あなたがたが求めている祝福を受けたいと望むなら，ただ単に神殿に入るにふさわしくあるだけでなく，立派な生活を送り続けねばなりません。もしふさわしい生活をしないなら，祝福は受けられなくなります。それはきわめて単純なことです。もしあなたがたが誓約を守るなら，大きな祝福を受けるという天父の約束が得られます。

「汝らわが言うところを行なわば，主なるわれこれに対して責任あり。されど，汝らわが言うところを行なわずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82章10節)

求められているあらゆる誓約は，もしそれを守るなら，一層よい生活を送る助けになることを，あなたがたは確信できます。あなたがたは，よき父，母となり，よき教会員となり社会にあってよき市民となり，正直に商取引きを行ない，そうしてなお神の戒めの1つを守り，あなたがたの両親を敬うでしょう。

「あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。」(出エジプト20：12)

神殿内で主と交わすように求められる誓約は神聖なものであって，神殿の外では決して話し合ってはならないものです。しかし，もし神の戒めに従順なら，主の聖なる家で交わした誓約にそって生きることに何の困難も感じないことを確信できるでしょう。

「ごらん，神がお前たちに要求なさるのは，お前たちが神の命令に従うことだけである。それで，神は『汝らもし神の命令を守らば地に栄ゆべし』と言う誓約をお前たちに立てたもうた。そして神は一度口に出したことを変えたまわないからお前たちが神の命令を守るならば神は必ずお前たちを祝福して栄えさせたもう。」（モーサヤ２：22）

神殿の儀式にとって基礎となる大いなる原則は，かつて予言者ジョセフ・スミスによって，次のようにその要点が述べられています。

「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて，あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち，われら何にても神より祝福を受くる時は，この祝福の基づく律法に従うによりて然るなり。」（教義と聖約130：20，21）

O・レスリー・ストーン
ソルトレーク神殿長

「日の栄光を受けるには何が必要でしょうか」

解答 マッキンレー兄弟

ジョセフ・スミスが，時満ちたる神権の時代を開くよう，予言者として神より任命されたことは，宗教的経験の総決算として当時流行していた宗教的神秘主義や感傷主義に決定的な打撃を与えました。

それ以後，宗教は，人間や事物に働く永遠の律法として明確に認められたのです。そこで，慈悲と正義の神が備えられた最高の栄光である日の栄光は，単にキリストのみ名によって熱心に望むだけでは得られず，また，単にしばしば善行を積み重ねるだけでも得られないのです。

そのような思いや行ないはそれ自体で終るものであって，立派な人をも日の栄光へおもむかせることはできず，月の栄光へと向かわせるのです。というのは，熱烈な望みと良い行ないが，日の栄光にふさわしい生活にとって大切な要素である一方，太陽の力と輝きが月の光よりもはるかにまさっているように，限られた月の栄光の次元よりも，日の栄光の力ははるかにまさっているからです。

日の栄光の本体と活力を統治する律法が，予言者ジョセフ・スミスに次のように説明されています。

「而してこの大神権は福音を授け，また王国の奥義の鍵，すなわち神の知識の鍵を保つものなり。この故に，これを以て礼式を執り行う時に神の能力顕る。而して，この神権を以てする礼式と神権の権能なくしては，肉身を持てる人間に神の能力顕るることなし。」（教義と聖約84：19—21）

イエス・キリストご自身の権威と権能を直接受けた者から福音の諸儀式を受け，律法を施行することにより，人は日の栄光の次元の生活へ導かれるのです。日の栄光の結婚も含めて，回復されたキリストの福音の諸儀式によってつちかわれる，神のようなただ１つの力を啓発し続けるなら，必然的に日の栄光の王国で，最高の地位である昇栄の実を生ずるのです。なぜなら主は次のように言っておられるからです。

「日の栄の霊の者たちも，肉体たりしと同じ体を受くべく，すなわち汝らは汝らの体を受けて，汝らの光栄は汝らの体を生かしたる光栄と同じからん。

日の栄の一部によりて生かさるる汝らは，それよりそれと同じ栄，誠に完全なる栄を受くべく，

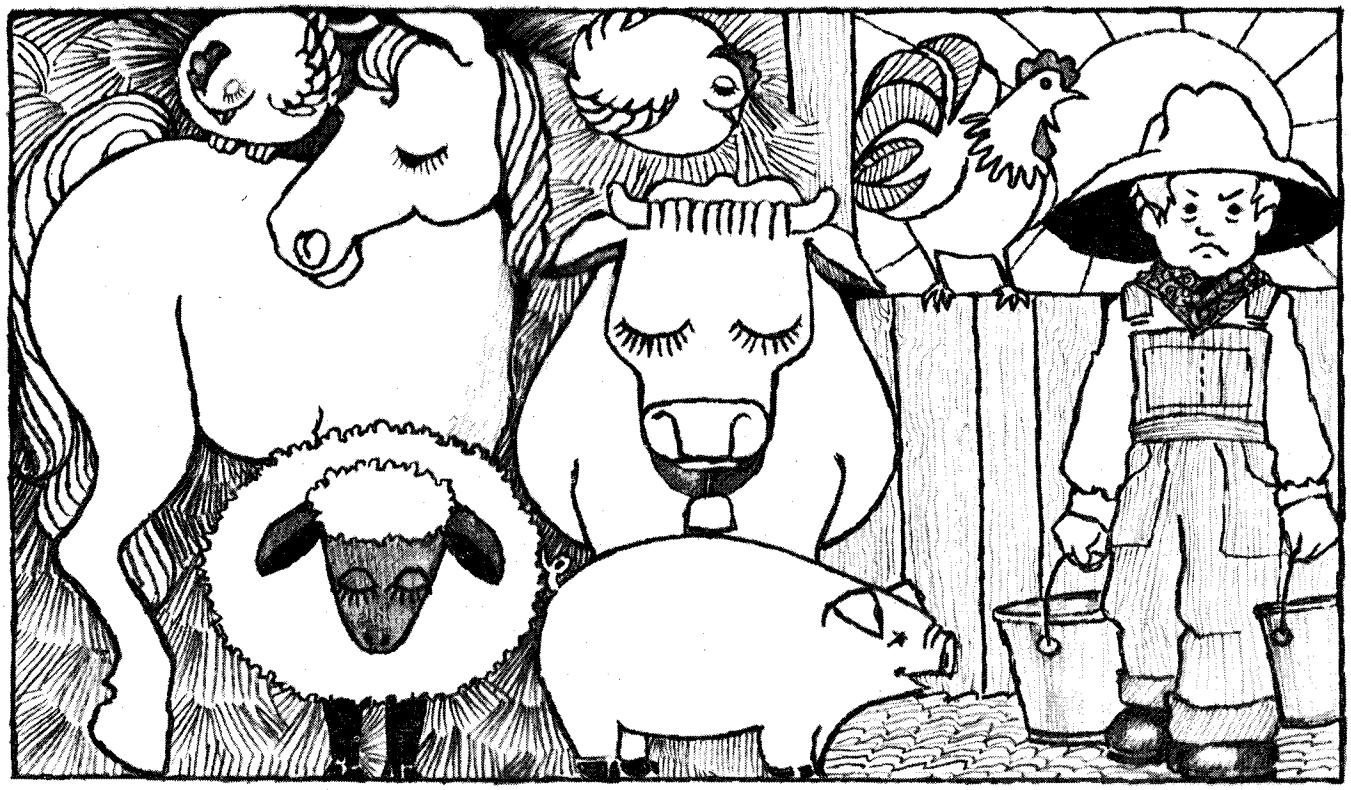
月の栄の一部によりて生かさるる者たちはそれよりそれと同じ栄，誠に完全なる栄を受くべく，

また，星の栄の一部によりて生かさるる者たちは，それよりそれと同じ栄，誠に完全なる栄を受くべし。」（教義と聖約88：28—31）

星の栄光，月の栄光に関するすべての真善美を包含する日の栄光の王国の律法を大切に守り，それにそって生活することが，日の栄光を得るに必要なことなのです。

以上の観点に立って興味をもって考えるなら，この日の栄光のすばらしい満足すべき喜びを，復活のあとの生活まで引き伸ばすことなく，この世での毎日の生活で，その喜びを味わう頻度を増し，強めてゆくことができるし，またそうしてゆかねばなりません。

リン・A・マッキンレー
ブリガム・ヤング大学教授
（コミュニケーション）
福音の教義の教師



おひゃくしょうさんとおんどり「セス」

バージニア・マーセイ　絵：ニーナ・グローバー

あるところに年とったおひゃくしょうさんがいて，セスという大きなおんどりをかっていました。毎朝，夜があけはじめると，セスは，おひゃくしょうさんとおかみさんをおこすのでした。セスはぶたや牛やめんどり，そしてかかしまでおこしました。

「コケコッコー！」お日さまが，ちょっと頭を出すと，セスはすぐに朝のあいさつをするのです。

すると，おひゃくしょうさんは，ぶつぶついいながらおきあがり，びっこをひきひき窓までいってげんこつをふり上げ「うるさいぞ，おいぼれどりめ」とさけぶのでした。

でもおかみさんは，きげんよくおきて，１日の仕事を始めます。「ぶたにえさをやらなきゃならないよ。」

おかみさんはおひゃくしょうさんにいいました。「それに牛もきっとミルクをしぼってもらいたいと思っているよ。おまえさんを朝早く起こしてくれるおんどりがいることをかんしゃしなくちゃ。おまえさん，いつまでもこんないいことばかり続くわけではないよ。」

ある朝，セスは目をさまして考えこんでいました。「どうしてぼくは，あんなわからずやのごしゅじんをおこさなきゃならないんだ！　あいつは，ぼくのことをありがたいとも思っていない。だったら，ここののうじょうのほかの動物たちと同じように，ぼくもねていてやろうかしら。」

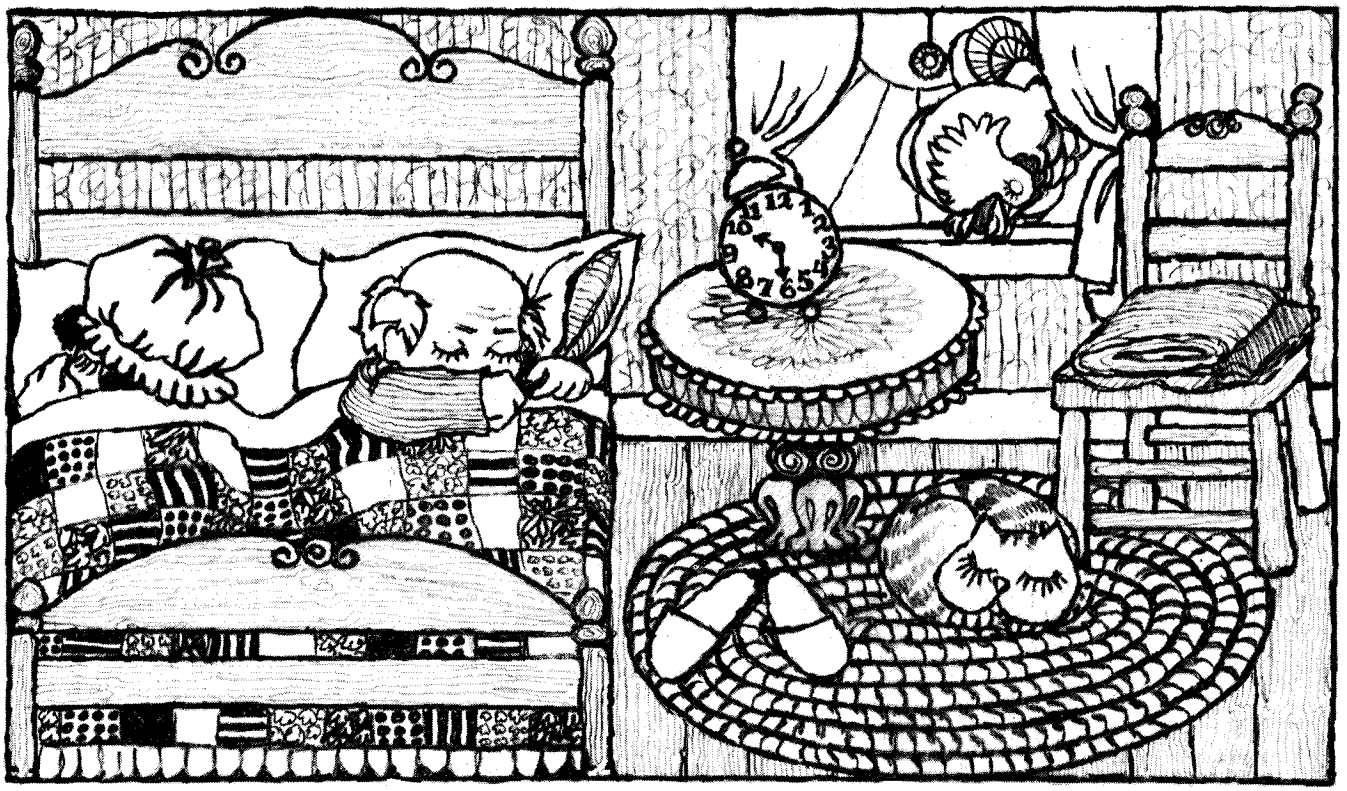
おひゃくしょうさんは，その日，おそく目をさましました。するとまもなく，ぶたがえさをほしがってぶうぶう鳴き出しました。牛はミルクをしぼってくれとよびます。めんどりはとうもろこしをほしがって羽をバタバタさせています。カラスはとうもろこし畑をあらしに来ました。

その日は，暗くなっても，仕事がまだのこっていました。「なあに，あしたはきっと，あのおいぼれどりがないてくれるさ。」と，おひゃくしょうさんはおかみさんにいいました。

でも，セスは，次の日もなきませんでした。その次の日も，そのまた次の日も。

おひゃくしょうさんは，だんだん心配になってきて，小屋のところへ行って，「どうしたんだい，おまえは」とききました。

セスは，羽をバタバタさせただけでした。



「どうしたらいいんだ。」おひゃくしょうさんは，おかみさんにききました。「このままだと，のうじょうはだめになっちまう。ぶたはやせるし，めんどりはたまごを生まないし牛の乳はくさっちまうし，カラスどもは，畑のとうもろこしをあらしに来るし。」

「ちょっと親切にしてやればどうなの」おかみさんは言いました。

「親切か，それもよかろう。」おひゃくしょうさんは気がすすみませんでした。

「じゃあ，目ざまし時計を買いましょうよ」とおかみさんが言いました。

「いい考えだ。」おひゃくしょうさんもさんせいしました。そして町へ行って時計を買ってきました。その夜は気をつけて，時計のねじをまき，ベッドのそばにおいてねました。

「リン，リン，リン」次の朝，時計は鳴りましたが，おひゃくしょうさんの耳にはきこえませんでした。

「いったい，どうしたらいいんだろう」目をさますとおゃくしょうさんは泣き出しそうになりました。「わしは，セスのコケコッコーという声になれているもんだから，他のものじゃ目がさめないんだ。ああ，わしはどうすればいいんだ」

「ちょっとやさしくしてやればいいのよ」おかみさんは，またそうすすめました。「セスに，おまえのコケコッコーがきけなくてさびしいって言ってごらんよ。」

そうです。そうすればよかったんです。「おまえこそ世界中で一番じょうずにコケコッコーとなくとりだよ」とおひゃくしょうさんはセスに言いました。そして，ひとつかみのとうもろこしをやりました。

次の日の朝早く，セスはへいのてっぺんにとび上がって羽ばたきをし，黒くて長いくびをのばして，朝のあいさつをしました。「コケコッコー！コケコッコー！」

年とったおひゃくしょうさんとおかみさんは，ベッドからとびおきました。おひゃくしょうさんは窓のところへ走っていって，元気よく，さけびました。「おはようセス。おまえのコケコッコーがきけて，うれしいよ。」そして，仕事をしようと急いで外にとび出しました。しばらくすると，仕事はみんなすんでしまいました。

その夜おかみさんは，ベットにはいるときに，おひゃくしょうさんを見てにっこりわらっていいました。

「ひとにぎりのとうもろこしのききめは大したものね。」

「そして，ほんとにちょっとした小さなしんせつのききめもね。そう言っておひゃくしょうさんは，幸せそうにわらって，ベットにとびこむと，すぐにぐっすりねむってしまいました。

やってみましょう

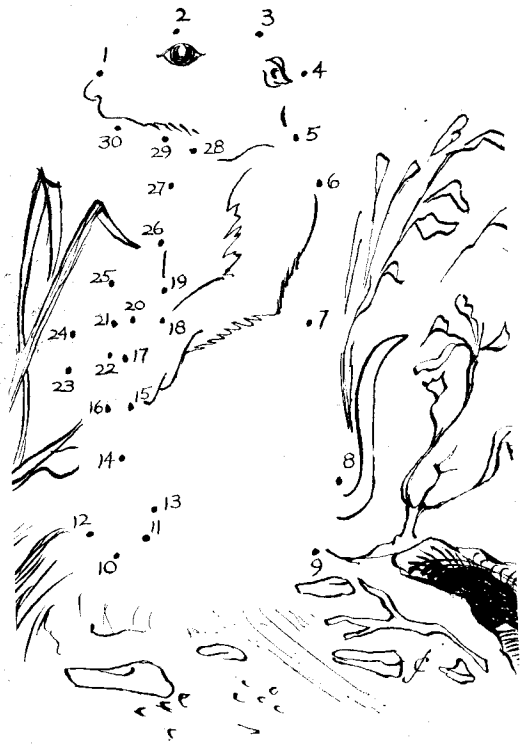
なにがいるのかな

ロベルト・ファイアル

てんのあるところをぬってごらんなさい。
おやおやこれはなんだろう。

これはなんでしょう

キャロル・コナー



にたものどうし

ウォルト・トラッグ

おなじとりをさがして，色をぬりましょう。

みたまの声に従う

わたしは，昔死ぬか大けがをするところをすんでのところで救われたことがあります。それは父が，みたまの声をきいてくれたおかげでした。もし父が静かな細いささやきをきいてそくざにそれに従わなかったならば，わたしの人生はそこでおわっていたか，全く別なものになっていたことでしょう。

わたしの，ごく幼い頃のことで，ひとつ覚えていることは，リンゴ園を馬に乗って散歩したことです。わたしの馬はよくならされており，よく仕込まれていたので，安心して乗ることができました。

ところが，ある日，その馬が何かにおどろいて，急に果樹園の中を走り出したのです。その拍子に片方の足があぶみからはずれて，くらから落ちました。その時，わたしはわらをもつかむ思いで，カウボーイがよくくらに投げなわをしばりつけるのに使う，今にも切れそうな1本のなめし皮のひもにぶら下がっていました。わたしの体重では切れて当然でした。しかしどういうものか，そのひもは，しばらくの間切れませんでした。もう1歩か2歩馬がぼう走し続けたなら皮ひもはきれてしまったに違いありません。さもなければわたしは手を離してしまったでしょう。そして，かた足があぶみにもつれたままひきずられて，大けがをしたか，死んでしまったかにちがいないのです。

突然，馬は止まりました。そしてわたしは，だれかがたづなをしっかりとにぎりしめ，興奮のため身をぶるぶるふるわせている馬を落ちつけようとなだめているのに気づきました。わたしは，その人のうでの中にぐいっと抱き上げられました。父だったのです。

何があったんでしょう。わたしを救うために，父をよこしてくれたのは何だったのでしょう。わたしが，ぼう走する馬のひづめにかかる前に，しか

小さな お友だちへ

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

も，数秒をあらそう時に。

父が家で，いすにこしかけて新聞を読んでいる時，みたまがこうささやいたのです。「急いで果樹園へ走っていきなさい。」

一刻も迷うことなく，理由を考えようともせずに，父は走りました。どうして果樹園に来たのかわからないのでした。そこでわれに返ると，ぼう走する馬がいました。父は止めなくてはと思ったのです。

父はそのようにして，わたしを見つけました。そうしてわたしは，大けがをするか，あるいは死んでしまったかもしれなかったところを救われたのでした。

みたまは，ウイルフォード・ウッドラフにも，木から馬を解き放つように言われたことがあります。彼が馬を放つと，ほとんど同時につむじ風が起きて，木は根っこから倒れてしまいました。

また，ジョセフ・F・スミスにも，電車の後方のデッキを離れて内側へ行って腰をかけるようにささやいたことがあります。彼がそうするとすぐに電車は事故に会いました。

わたしの知っている空軍飛行士の話ですが，彼が軍用機で厚く雲のたれこめたベトナム上空を飛んでいる時，みたまが右旋回せよとささやくので，急旋回すると，飛行機が一機さっと通過していきました。彼はあやうく正面衝突をまぬがれたのです。

バプテスマを受ける時，わたしたちは聖霊の賜を受けます。それは忠実であるならば，常にこの神会の御一方の導きを受ける権利なのです。そして，それは人間がこの世にいる間に受けることのできる最大の賜なのです。

わたしたちの中で主を愛し主に仕える信仰を持ちつつ祈る人に与えられるきよきみたまのほかには，わたしたちを守り導いてくれるものはありません。みたまは私たちを導き，守ってくれるのです。

主を愛し，戒めを守り，そして，主のみたまを求める時にわたしたちは，思いがけない祝福を受けることを証します。

絵：ジェリー・トンプソン

モ　ル　モ　ン

マーベル・ジョーンズ・ガボットによるモルモン経物語

アマロンはモルモンに言いました。「私はあなたがまじめな子で，すばやく物事を見分けることができるのを知っています。」

モルモンはアマロンを見上げて，じっとその言うことに耳をかたむけました。イエス・キリストがアメリカ大陸にいたニファイ人に，正確で完全な記録を守り続けるように言われてから，320年がたっていました。モルモンは10才のときまで，しばしばそのお話を聞きました。そしてニーファイの民のすべての神聖な記録を守る責任のあった歴史家アマロンを尊敬していました。それでアマロンが続けて言うのを，モルモンは静かに，そしてとてもアマロンを尊敬しながら聞いていました。「しかし，あなたはこの国の民について知っていることを思い起しなさい。そして24才の時に，アンタムの地にあるシムと言う丘に行きなさい。そこに，私はこの民のすべての記録をかくしてあるのです。ニーファイ版だけ取り出し，ほかの記録はかくしてある場所に残しておきなさい。」

モルモンはアマロンの言ったことの意味がわかると目を輝かせました。彼の心臓はどきどきしました。これはとても大きな責任でした。モルモンは早くその記録を見て，それを手に取り，たくさんの歴史を読みたくてしかたがありませんでした。しかしアマロンは言ったのです。「24才の時に……」と。14年間も待つということは，とても長いように思えました。むしろ長すぎるとさえ思いました。

次の年，モルモンが11才のとき，おとうさん（モルモンと同じ名前）は，たくさんの建物が建っているゼラヘムラへ移って行きました。そして4年間この地には平和が続きました。

その後ゼラヘムラの民の間で悪いことがたくさん行なわれたので，モルモンが15才の時に，教会はゼラヘムラの地にはなくなりました。そしてレーマン人たちの間にあったガデアントン強盗団が全国をあらし，だれもがおそろしい目にあって，宝も財産も失いました。モルモンは，主が訪れたので，こわくはありませんでした。その時，人々のすることをよく見て，落ち着くまで待つように言われました。また人々の心がかたくななので，この民の間では神の道を説いてはならないとも言われました。

16才の時，また戦いが始まりました。ニーファイ人はモルモンに，軍隊を率いてほしいと言いました。というのはモルモンはりっぱな体格をしていて，悪い人たちの中に入らず，良い人だったからです。

ニーファイ人はモルモンを信頼していましたが，レーマン人がとてもすごい武力とたくさんの兵士を引き連れて攻めて来るのを見て，北の地へ逃げ始めました。そして全国で，建物はこわされ，見るかげもなくなりました。

モルモンは民をはげまし，レーマン人に勇かんに立ち向かうように言いました。ニーファイ人はその言葉に従いました。それでレーマン人はモルモンの前から

逃げて行きました。このようにしてモルモンはまだ少年でしたが，民を大きな戦いに勝つよう導いたのです。しかし，ニーファイ人たちは悪いことをしていたので，主はその力を注ぎませんでした。彼らは北へ北へと逃げて行きました。そしてとうとうアマロンが記録を埋めたというシムの丘まで来ました。

モルモンはその時34才でしたが，アマロンが言ったことを忘れてはいませんでした。彼はシムの丘へ行きました。そこにはたくさんの記録がだれにもうばわれないようにかくしてありました。ついにモルモンはそれを見，手に取ることができました。それらは金属で作られ，それぞれの金属板にはすばらしい記録が刻まれていました。モルモンはできるかぎり力をつくしてそれを読んで学びました。しかし命じられていたようにニーファイ版だけを取り出しました。

その後モルモンはシムという北の地に彼の民を集めました。そしてレーマン人やガデアントン強盗団と戦い，勝って以前持っていた地を取り返すまでやめませんでした。条約が結ばれ，10年間平和が続きました。主は民に罪のくい改めを命じ，イエスを信じその教会を建てるようにさせなさいとモルモンに言いました。モルモンは民を愛していました。彼は祈って，人々がしている悪いことに気づかせようとしましたが人々は言うことを聞きませんでした。民は主を忘れてしまっていました。人々はただ戦って，レーマン人を殺し，復しゅうしようとしました。

モルモンは記録を書き始めました。彼は「私はこの地のすみずみの人にあてて書く」と言いました。彼は民のことと，イエスが正しく良い人であることを書きました。

金属板に文字を刻むのはどんなに先のとがった道具で書いてもむずかしいことでした。彼は長い間心をこめて働きました。彼は前に書いた人たちの記録を勉強しました。すると何回も何回も同じことが繰り返されていることがわかりました。人々がイエスに仕えたときは幸せになり，イエスを忘れたときには悲しいことが起こったのです。モルモンは，世界はどのようにして今までこれらのイエスの教えを知ることができたのだろうと思いました。そこで彼は1冊の小さな本に記録を書き写すことを決心しました。28年間，ニーファイ人とレーマン人は戦っていましたが，その間モルモンは記録を小さくまとめ続けました。しかしあえて見たこと全部は書きませんでした。というのは見たものを全部書いてはならないと命じられていましたし，彼はとても心配していたことですが，ずっと後の世の人々がこの時代に行なわれた悪いことについて読んで学んだら，悲しむだろうと思ったからです。

モルモンは，アマロンがシムの丘にかくした記録を全部取り出して，人々が北の地へ追い払われて行くときも，それをよく守りました。

その後モルモンは彼の民をクモラの地へ導いて行きその丘のまわりに天幕をはりました。その時彼は75才でしたが，最後の激しい戦いが起るのではないだろうかと恐れました。レーマン人は多勢でしたし，それにとても強かったのです。ニーファイ人は戦うために男の人や女の人や子供たちを集めました。人々はおそれましたが，それでも戦いました。あらゆる武器を持って立ち向かいました。モルモンは兵に命令し，導きましたが，たくさんの人々が殺されました。何千人も殺され，とうとう24人だけが生き残りました。

モルモンは，「全身が引きさかれる思いがした」と書いています。彼はたいへんたくさんの人々が死んだことを悲しみ，またもしニーファイの民がその罪をくい改め，主に仕えたなら戦わなくてもすんだということがわかっていたので，とても心をいためました。

モルモンは重傷を負い，もう間もなく死ぬことがわかりました。彼は息子のモロナイにモルモン経を完成し，すべての神聖な書物を無事にかくすようにたのみました。そして，モロナイは言われた通りにしました。

方針とプログラム

教会の集会で教会幹部のサインを求めたり，挨拶することについて

ステーキ部，伝道部を訪問する教会幹部のサインを求めようとする会員が増大する傾向にある。あるところでは誰が，一番多く讃美歌や聖典に署名してもらったかを見せ合う競走にまで発展している。集会後にサインを求める人々があると，教会幹部は気が散って，他の人々に挨拶するのが困難になる。加えて，その兄弟に名士であるかのような観念を与えることになる。それは彼らに託されている神聖な召しにふさわしいものではない。サインを求めることのないよう教会員に提起していただきたい。

教会幹部は会員と握手する機会をいつも感謝している。サインするよりもむしろ会員と挨拶し握手することを，集会や礼拝の様式とするようにしたい。

教会幹部の話を録音することについて

次の指示に注意していただきたい。「ステーキ部大会で，許可なく教会幹部の話を録音してはならない。また，当該教会幹部の同意がなければ，いかなる時も録音してはならない。」

教会幹部が出席するステーキ部大会や他の集会に録音装置を持ちこむ人々が増大しているので，上述の勧告に注意を払うよう教会員に望むものである。

葬儀の手続き

葬儀の際，次の点に注意を払っていただきたい。

葬儀の始めと終りの音楽を省略して，プログラムの中間だけを使う習慣が現われてきている。今後，教会員の後援により行なわれるすべての葬儀にあって，音楽，話，祈りについては，聖餐会の一般的な型に従うよう要請する。日曜日の集会と同様に，葬儀の始めの祈りの前に，またできれば祈りの後にも，音楽を用いるようにすること。葬儀の終りにも同様に通例の型にならって，祈りのすぐ前に音楽を奏するようにする。できる場合には，聖歌隊の音楽プログラムを組み入れると非常に良い。

教会の基本的な教義を説くにあたって，葬儀はすばらしい機会となることを心に留めておくと良い。

棺が建物内に運び込まれて礼拝堂の通路を行進する際，監督が先導する必要はない。

以上の提案に従うなら，確立した型に従って葬式を行なう助けとなり，現在いたるところで非常に一般的になっている慣例を避けられるであろう。

平安はどこから来るのか

十二使徒評議員会補助
ジョン•H•バンデンバーグ

けさタバナクルに向かう途中で，連れの１人の兄弟が私に，「監督，私は午後のあなたのお話を楽しみにしています」と言い，「あなたが最後の話者です」とつけ足した。

彼は，この立派な大会が多くのもの多くのよいもの，すなわち予言者，聖見者，啓示を受ける者の証，興味ある変更事項，神は生きておられ，イエスはキリストであるとの兄弟たちの証を杯があふれるほどに与えてくれると心に想像していたに違いない。

ある進路を定め，その道に勤勉に励むことは，何という祝福であろうか。過去10年間，私は２人のすばらしい兄弟と共に働く特権に恵まれた。皆様がたは，ロバート・Ｌ・シンプソン長老とビクター・Ｌ・ブラウン監督のなしたすばらしい仕事を見，心にいつまでも残る言葉を聞いてきた。これは別れではない。私はこれからいつも，これらのすばらしい神の人と共に働いて得た経験を大事にしたいと思う。神は彼らを祝福され，彼らの奉仕を通し教会を祝福しておられる。

私たちが啓示に導かれていることを私は知っている。啓示は神の予言者ジョセフ・フィールディング・スミスを通して私たちにもたらされる。私はこのことについてよく考える。それは，彼がただ１人の予言者であり，副管長がスミス大管長と共に働く時，彼らは神に仕えているのだと知っているからである。

この大会の話を考えていた時，私は召しが変わることを知らされていなかった。私は最近ハワイを訪れたが，そこで，ハワイの少女が私たちに近より両手の指を２本立てながら両腕を高くあげた。そのサインは何の意味かと尋ねると，彼女はすぐさまにっこり笑って「ピース」と答えた。

ハイウェイを走っていると，通り過ぎる車から若者たちが窓越しによく同じサインをしてみせる。壁にも塀にも歩道にも，時には乗物にもサイケデリックな色彩でピースという言葉が書かれている。

私たちは，現在の世代がこんなにも平和に関心を持っていることに驚いている。この関心は，過去の世代の持った平和への関心と違っているのだろうか。それは一時の流行だろうか。あるいは平和実現への深い決意を秘めたものだろうか。

救い主は，平安を２つに分けられた。十字架にかかる前の数日間に弟子たちに言われた言葉が思い浮かぶであろう。救い主は弟子たちに戒めを守れと言い，彼らに別の慰め主，真理のみたま，すべてのことを教え，主が話しておいたことを，ことごとく思い起こさせる聖霊を送ると約束された。そして主は，「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな」（ヨハネ14：27）と言われた。

救い主はなぜ，「世が与えるようなものとは異なる」と言われたのだろうか。世はどのような平安を与えてくれるのだろうか。

世の多くの人が平安を求めているのは事実である。しかしその幾人かは平安を求めながら，その反対の貪欲，野望，ねたみ，怒り，高慢の道へ踏み込んで行く。平安の最大の敵は，利己心であり，それに伴い地上に宝を積もうとする欲望である。ルカによる福音書の中の，良き教師の語られた１つのたとえが心に浮かんでくる。

「群衆の中のひとりがイエスに言った，『先生，わたしの兄弟に，遺産を分けてくれるようにおっしゃってください』。彼に言われた，『人よ，だれがわたしをあなたがたの裁判人または分配人に立てたのか』。それから人々にむかって言われた，『あらゆる貪欲に

・・・・・・・仮の世の平安と異なるキリストのまことの平安・・・・・・・

対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても，人のいのちは，持ち物にはよらないのである』。そこで一つの譬を語られた，『ある金持の畑が豊作であった。そこで彼は心の中で，「どうしようか，わたしの作物をしまっておく所がないのだが」と思いめぐらして言った，「こうしよう。わたしの倉を取りこわし，もっと大きいのを建てて，そこに穀物や食糧を全部しまい込もう。そして自分の魂に言おう。たましいよ，おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ，食え，飲め，楽しめ」。すると神が彼に言われた，「愚かな者よ，あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら，あなたが用意した物は，だれのものになるのか」。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は，これと同じである』。」（ルカ12：13—21）

私たちはどうすれば，神に対して富むことができるだろうか。それは，神の戒めを守って神と隣人とを愛することにより天に宝をたくわえることと関係があるのではなかろうか。毎日これらの目的を心に留めて生活すれば，私たちの人生に救い主の言われた平安がもたらされるのではないだろうか。私たちは皆，あまりにも多くのことにさえぎられて，最も必要なこれらのことを忘れてはいないだろうか。

ヘンリー・デビド・ソローは，そう考えた。彼は著書「ウォルデン」の中で，「大方の人間は静かな絶望の人生を送っている。……ぜいたく品のほとんど，人生の娯楽というものの多くは必需品でないばかりか，人類の向上をまったく阻止するものである」と語っている。

また，ジョシュア・リーブマンは小篇「心の平安」の中で同様のことを書いている。「人は，家や財産，楽しい家庭を持ちながらも，光輝く決勝点をめざしたマラソン・レースで他の走者たちに追い越されたため，それらのことは皆自分にとって灰となったと考える。自分のほしいものが足りないというのではなく，他人はもっと持っているというのだ。その思いがつきまとえば，つきまとうほど，自分を軽視し，自分の成し遂げたことを過小評価するのである。

人が己れにこう言うべき時が来た。家族や自分の安全と尊厳を保つに充分なものを得ている限り，他人の富や力がどれだけあるかということに関心を持つのはやめよう。だれが貧者か，だれが富者か，だれがもっと持っているかといつも比較して生活を考えるよくない集団から抜け出そう。他人の目標を借りるのではない，自分のために自分の目標をたてよう，……と。」

私は，このことは今，若い時から学ぶべきことであると信じている。そうした人は，多くの場合，物質に価値を置くことのはかなさを見抜き，容易に価値を定める。彼らは，人の支配力を求める野心が，平安ではなく欲求不満をもたらすことを知っている。明らかに，歴史は野心家たちの盛衰で埋まり，国々の敵対行為がつかのまの休戦に入ったと思うと，「さあ，これで平和になる」といつも叫んでいる。「戦争を終結させるための戦い」が幾たび行なわれてきたことか。

ところが，事典には紀元前1496年から紀元1861年までの間に，平和だった年がわずか227年で，戦争のあった年が3130年あったと記されている。個人にせよ集団にせよ，野心は平和実現の希望を消すものである。

現在，世界中で平和が求められている。平和の時代が求められている。しかし，力を追う利己的な競争を放棄し欲を捨てた人もほとんど平和を手に入れるのにどの人生に梶を向けたらよいかを知らずにいる。

平和は，ピースのサインをしたり，塀に言葉を書いたりして得られはしない。私たちの主，救い主の戒めを守ろうと自分で努力することにより，最も早く，最も完全に来るものである。なぜなら，神は平安を享受するように願って全人類を造られたからである。

この世の物を夢中に追い求めて平安がもたらされないのと同様，怠惰に座っているだけで平安は得られない。現代の利器は，自分や家族を支えるに必要な以外に多くの時間を生み出してくれるので，その時間を怠惰に使わないことが大切になる。私たちが主の平安にあずかるためには，なすべきことがたくさんあるからである。

心の平安を得るには，おそらく，互いに奉仕するのが一番早い方法であろう。歴史には，この平和が人々の心から欲や野心，ねたみ，怒り，高慢を消し去る，すばらしい時代のあったことが記録されている。それは，救い主が死んで復活し，アメリカ大陸を訪れられたすぐ後のことであった。次のように書かれている。

「……全地の住民がみな心を改めて主を信ずるようになったので，その間に何の不和争論もなく一人のこらずみな互いに正しく扱った。そればかりでなく，一同は一切の所有物を共有したので富んでいる者と貧しい者との区別もなく，自由な者と奴隷との区別もなくて，誰もかれも自由となり天の賜を授けられた。

そして，イエスの弟子たちは偉大な驚嘆すべき業を行なって病人を医し，死者を蘇生させ，あしなえに歩む力，めくらに見る力，つんぼに聞く力を与

え……。

主は民を地の面で非常に栄えさせたもうた……。

さてニーファイの民は強くなり，その人口は急速に増加して非常に美しく楽しい国民となり，嫁に行き嫁をもらって，主がかれらと結びたもうた非常に多くの約束の通り恵みを受けた。そしてもはやモーセの律法に定めてある儀式典礼を守ることなく，かれらの主，かれらの神から受けた誡命に従い，怠らずにたびたび断食と祈りをし，たびたび集会を開いて祈りをしまた主の御言葉を聞いた。こうして全国の民の中に不和がなくイエスの弟子たちの間に大きな奇蹟が行われた。

民はその心に神の愛を保っていたから，全国に何ら不和がなかった。また嫉妬，闘争，暴動，みだらな行い，虚言，人殺し，および何らみだりがわしい行いがなかったから，まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。強盗も人殺しもなくレーマン人と言う者もどのようなちがった民もなく，みな同じくキリストの子であって，神の王国をつぐ者であった。主はこの民の一切の業を恵みたもうので，かれらは本当に幸福な民であった。そして第百十年が過ぎ去るまで民は恵みを豊に与えられまた非常に栄えた。こうしてキリスト降誕紀元後の第一代は過ぎ去って全国どこにも不和がなかった。……今言ったことを記録したニーファイは……八十四年間この記録をつずけたが，その間には国民の中の僅の者共が教会に叛いて……ほかには何にも平和を乱すことはなかった。

さて二百年経って……（Ⅳニーファイ２―３，５，７，10―11，12―13，15―20，22）

これはモルモン経に載せられている実に幸福な民の歴史である。モルモン経には3000年近い年月の出来事が記されているが，民が平和と愛，幸福，繁栄を受けたのは，神の戒めを守ったこの時期だけであった。

現代人の最大の望みは，平和，喜び自由，進歩の人生を見いだすことであり，それはただイエス・キリストの福音の中にのみ見いだすことができる。しかし悲しいかな，私たちは，戦争，破壊，緊張，破戒，不道徳にかこまれて生活しているのであり，多くの人が道を見失っていくのである。そんな１人の若い女性が，キリストのまことの福音を見いだし，混乱の中にさまよっていた自分がそこから抜け出る道を教えられたことは何と幸いなことであったか。また，自分に道を示してくれた心のやさしい若者たちにどんなに感謝しているかを語っている。

私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，私たち全人類がかつて前世で神の子供として生活し，永遠の生活に必要な大事な一過程としてこの世に生まれてきたことを神からはっきり知らされている。この世に生活している間に，正義を選び，信仰によって，永遠の生活と共に現世でも平和と自由をもたらす啓示された神の計画を知る機会がある。

私たちは，神が選ばれた予言者を通じ，平和へ導く人生の生き方，すなわちイエス・キリストの福音を啓示されたことを，事実として受け入れている。

利己心，ねたみ，怒り，高慢を含めた肉体を楽しませる数々の感情を霊的な理想でおき替え，罪を忌み嫌わなくてはならない。なぜなら私たちは，この世での行ないはすべて自分の永遠の生活に影響することを知っているからである。

私たちは，この知識，この生き方によってのみ，個人も国家もあれほど捜し求める平和を手に入れることができると信じている。

そこで私たちは，口で平和を求めているこの世代の人々に宣言するのである。平和への思いは実に意義あることであると。なぜなら，私たち個人の平安や世界の平和も大いに私たちの手中に握られているからである。まず自分の魂に平安を打ち建てようと励む時，そのことを信じ，そのために努力し，平和を求めて生活しなさい。そうすれば，あなたはその時まことの平安を得るであろう。

さて兄弟姉妹，この大会を終えて帰る時，私たちの杯があふれていることを忘れないようにしようではないか。私たちは神の予言者の偉大な説教を聞いて満たされた。兄弟たちの証に心満たされた。これまでこの場にあり，今も共にある神のみたまによって，私たちは満たされている。

自分の証をもって進もうではないか。私はその証に私の証をつけ加えたい。私は，神が生きておられ，イエスはキリストであり，もし望むならば私たちは，神の予言者ジョセフ・フィールディング・スミスと彼を支える２人の予言者ハロルド・B・リー，ナサン・エルドン・タナー，そして彼らを助ける13人の予言者，十二使徒評議員と祝福師のもとで生活し，奉仕できるということを知っている。

あなたがたが自分のつとめを遂行しようと進み行く時，たとえどこにいても神があなたがたと共にあり，あなたがたを祝福されることを。イエス・キリストのみ名によりへりくだって祈るものである。アーメン。

1972年4月6日木曜日午後第142回総大会における説教

愛の法廷

監督法廷の目的と機能を明らかにし，監督に勧告を与える。

十二使徒評議員会補助
ロバート・L・シンプソン

過去10年半の間，各地の教会を訪れて，多くの監督とステーキ部長に会ってきた。彼らはイスラエルの判事としての職を授けられており，群れの守り手であり，何ものにも劣らない責任を与えられているのである。恐らく教会のすべての集会の中で最も誤解を受けていると思われる集会についてこの大会で少しの間話したいと思う。その話というのは，監督法廷についてである。

初めに，一つの話をしたい。私が話す話は実際に起こったものであり，その事実は，確かなものである。その場に在席していた人々はそのことを決して忘れないであろう。

非常に遅い時間であった。部屋は静まりかえり，教会の法廷の判決を受けたばかりの一人の若者のすすり泣く声のみが聞かれた。その判決しかなかった。慎重な審議と断食と祈りの後に，全員一致で破門が決まったのである。数分後その若者は疲れきった顔を上げ，静けさを破った。「人生で一番貴いものを失ってしまいました。もう一度それを手に入れるまで，僕の目的はほかにありません。」出廷することは容易ではなかった。大きな過ちを犯したが，主の傍らに立ち戻りたいと望む人にとってそれは非常に勇気のいることであり，最も大切な要素であった。

若者の印象深い言葉に続いて述べられた言葉は，安心感を与えるものであった。ある人々は，今後悔改めの生活を送るなら助けを与えようと堅い約束をした。また，他の人々は背中をたたき，握手をし，信頼と友情を持ち続けようと目で伝えた。在席者は皆，この若者が主の道を求める時にのみ，人生のすべてのものが取り戻せることを完全に知っていた。

この若者は最初の一歩のみを大きく後退したのである。しかし，彼は破門された教会員として，物事を正しく行なおうと心に決め，会員の資格を持っていたほんの数日前よりもはるかに良い状態であった。彼が教会で何かをする時にその動きに偽善者という叫びが伴っているかのように思えたからである。

これは数年前に起こったことである。その若者の約束は果たされた。私に言わせると，神権役員に自らの罪を告白し，創造主の秩序に従う勇気を持っていたその若者

ほどしっかりと地に立っている教会員はいない。「人知ではとうてい測り知ることのできない」心の平安を再び持てることは，彼にとって何とすばらしいことであろうか。

教会の神権法廷は罰の法廷ではない。愛の法廷である。彼はこのことを理解できたのである。悪魔は心に恐れを置き，背罪者がなす必要のあることを行なうのを難しくする。ジェームズ・E・タルメージは語っている。「悔改めの時を引き延ばすに従って，悔改めの能力は弱くなり，また悔改めをする好機会をおろそかにすることは悔改めの能力を失うに至る。」(信仰箇条の研究，P.152) なす必要のあることは現在よりなし易くはならないという意味である。私たちを永遠の昇栄に到達させるものとして与えられた道と道標以外に，いかなる近道もない。

天父は後退を喜ばれる御方ではない。永遠進歩の源であられる。天父はこれを次の言葉で確認しておられる。「見よ，これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39) 永遠の生命を得ることによって神のみ名に栄光が加えられるのである。真の末日聖徒が受け入れる唯一の究極の目標はこれを得ることである。端的に言うなら，死すべき状態にあるこの世での使命は，個人の望みを十分に制御して，聖き神のみ前に出るにふさわしい日常の生活態度と思いを持つようにし，肉体の弱さと人生の不法に打ち勝つことである。性急で，自分本位で，不道徳な行為がすべて自動的に人の本性から拭い去られる不可思議な時が永遠の内におそらく存在するという，悪魔の教えに惑わされないようにしていただきたい。事実はそうではないこと，またすべての時代を通じて予言者たちは，今すなわちこの死すべき世のこの時が悔改めの時であると確証してきたことが，聖書に幾度にも亘って述べられている。今よりも容易になることはないであろう。ここでタルメージ兄弟の言葉に戻ろう。その日を引き延ばす人，すなわち勇気をあまり必要としない別な方法を待ち望む人は，むなしく待っているのであり，可能性はしだいに少なくなっているのである。そのような人はサタンが演じさせるがままにゲームをしているのである。そして，日が経つにつれて，神のみ前への昇栄はますます遠のいてゆく。

監督の皆さん，人々のために尽していただきたい。あなたの心にある親切と思いやりを人々に知らせていただきたい。ワード部運営上の諸事に捉われて，教義と聖約121章に述べられているすばらしい特性を人々に示すのを怠ることがないように。私の言う特性とは説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とである。

監督の皆さん，聖徒たちの相談にいつでものれるように，偉大な委任の原則を学んでいただきたい。あなたは彼らの判事である。そのような召しを主から与えられた者は，ワード部内に一人もいない。彼らが頼るのはあなたである。あなたは耳を傾けなければならない。また，天の声があなたを通して人々に祝福と教えを伝えられるように，ふさわしい生活をすることも同様に大切である。

確かに真の正義の礎石は思いやりである。人の心の感じやすさと悔い改めて主に従いたいという望みとは，罪そのものよりもはるかに大切なものである。

以前に会ったことがなく，今後再び会うこともない人に自分の犯した重大な罪を語ることは，悔い改めた罪人にとって比較的容易である。また人の目に見えない耳に

ひそかに語り，そこで目に見えない唇から赦しを受けることは，それ以上に容易である。しかし，このような場合，その人が，非常な努力を払って悔改めを完全にしようとし，また悲しみに再び陥らないようにするその後の数カ月間，その傍らに留まる人がいるであろうか。

いかなる人も，一人でその丘に登る力をほとんど持たない。それがいつも困難であることを考えていただきたい。助けが必要である。実際に私たちをひそかに愛している人，またひそかに，しかも確かに私たちを助けるように神聖な委任を受けている人の助けが。私はその言葉を再び強調する。ここに至って再び，サタンは，秘密はほとんど保たれないという偽りのうわさを広めているからである。監督とステーキ部長はこれらの大切な秘密をもらさないと，私は皆さんに確言したい。彼らはそのような人々ではない。聖任と任命の前に，予言者，聖見者，啓示を受ける者として神より召された人々が，神殿の上の部屋で彼らの生活について検討している。疑いもなく，彼らはこの世の高貴にして偉大な人々であり，聖徒たちもそのようにみなすべきである。

これは何と栄ある計画であろうか。私たちはみな犯したすべての過ちにもかかわらずすべての祝福を享受できるという希望を持っていること，完全に到達できること家族と共に聖き主のみ前に行けること，これらを知ることは何と心休まることであろう。

教会からの破門は世の終りではない。真の正義が行なわれる上でこの過程が必要であろうとも，もしみたまに心から従い，神の計画の確実性を信ずるならば，破門という大きな罰は最初の一歩の後退にすぎないと，私個人の心からの証を述べる。教会ではそのための職を受けた神権役員を通じてのみこれらの手続きが取られる。なぜなら，御父の家は秩序の家だからである。教義と聖約88章にはこのことが非常にはっきり述べられている。それを引用しよう。

「われまた誠に汝らに告ぐ。およそ律法により支配さるる者はまた律法によりて護られ，これによりて全くせられ聖くせらるるなり。

律法を破り律法を守らずして己れの欲するところを行わんとし，進んで罪の中に住りまた全く罪の中に住る者は，律法によりてもまた愛憐，正義，審判によりても聖くせられ得ず。さればこれらの者たちは，なお常に穢れの中に止まらざるべからず。

およそ，すべての王国には皆一つの律法を与えらる。

それ，王国は多し。そは，如何なる空間にも王国なきは無くまた大なる王国も小なる王国も，その中に空間なき国はあらざるなり。

而も，そのいかなる王国にも，一つの律法を与えらる。且ついかなる律法にもまた或る制規と条件ありて，

すべて，これらの条件に堪え得ざる者は，皆義しとせられざるなり。」（教義と聖約88：34—39）

言い換えれば，これらの条件に耐えられない人々，すなわち永遠の律法の違背を正すために定められた神権の権能による手続きに従って正そうとしない人々はみな，主に受け入れられず，主のみ前に行く資格も決して得ないのである。神は私たちを祝福したまい，永遠の律法を受け，他では得られない理解を得させたもう。

私たちがすべての人々の究極の祝福のための永遠の律法と正義の管理者となる時に，主の最も豊かな祝福が与えられるように。イエス・キリストのみ名により，アーメン。

アロン神権―確かな土台

アロン神権者として奉仕することによって将来大きな責任を受ける備えができる。

管理監督

ビクター・L・ブラウン

愛する兄弟の皆さん，今晩このように多くのすばらしい神権者たちを前にして，私の心は非常に和らぎ，喜びに満ち満ちています。教会の他の集会所にも何千何万の兄弟が集まっています。今，私は自分に課せられた責任の重大さを痛感せずにはいられません。

先日，この召しを引き受けてから，リー副管長に「召しがきた時，驚きませんでしたか」と聞かれました。私は答えにたいへん困りました。というのは私が受けたショックというのは，驚くという程度のものではなかったからです。またそのショックも，最初に話があった時よりも一段と大きいものでしたから。それでも，私は信仰を持ちそして大きな期待と熱意を将来にかけました。

私がこのように将来に期待するのは神が生きてましますことを知っているからです。そして私はイエス・キリストが神の子であって，人類の贖い主，教会の頭石であり，今日主の予言者であるジョセフ・フィールディング・スミス大管長を通してこの教会を導いておられますことを知っております。予言者ジョセフ・フィールディング・スミスは先程，力強く，彼の召しや私の召しについて証をされました。

スミス大管長が私の召しを発表された時，私は主が予言者を通して私を召されたことを，そして私が罪を悔い改めるならば，主は今から果たそうとしている仕事について私を祝福し，さらに強めて下さることを知りました。もし私がこれらのことが真実であることを知らなかったならば，そのような召しを受ける勇気も，ましてや大胆さをも持っていなかったでしょう。このことを知っていてさえも，そのような神聖な召しを引き受けようと考えるのはそら恐ろしいことでした。

ところで，私は最近の10年と半年の間は，すばらしい指導者である，ジョン・H・バンデンバーグ監督のもとにあって，ほんとうにすばらしい日々を過ごしました。私がステーキ部長会に召された時，私はデンバー第4ワード部の監督の時でした。デンバー・コロラド・ステーキ部長会の副部長として，また10年以上の間，管理監督の彼のもとで副監督として彼と共に務めてきました。私は心から彼を愛し，そして彼に感謝しています。彼は非常に才能豊かな人です。私は彼を助ける特権を得ましたことを本当に感謝しています。

シンプソン監督は管理監督会の第一副監督として，教会に大きな貢献をされました。それは，いたるところで人々が彼を愛していることから明らかです。彼はほんとうによい人です。

今，私は2人のすばらしい大祭司に心から感謝したいと思っています。それは彼らの主に対する献身と絶対の信頼であります。彼らはそれをもって，私のもとで副監督としての召しをよく果たすことを受け入れてくれました。

副監督を選ぶにあたって，私は祈りの中で，主の霊感を求めました。私は何百もの立派な兄弟の名前を読み返していました。彼らのうちの誰かが召されるはずなのです。2人，主が召されることを望んでおられるのは2人だけなのです。この大会の開会における彼らの証を聞かれて，あなた方は，このことが真実である確証を目のあたりにされたことと思います。

私たちは，管理監督会の責任を引き受けてみて，信頼をいかに天父においているかをよく知りました。これは主の教会であるという確信がありますので，私たちは主の手段によって，主の時間を使って主の仕事を成し遂げたい，という強い願いを持っていました。私たちは，主の目的である「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」（モーセ1：39）という目的が達成さ

れるために，それを助けるよう召された僕であります。

管理監督会は，世界中の神権者の長をすべて任命する大管長の管理のもとに働きます。彼らのさしずや委託によって，管理監督会は世界中のアロン神権者の長として務めています。

アロン神権とは小神権です。それはメルケゼデク神権者，大神権者としてふさわしくなるように準備するための準備の神権だからです。それで，管理監督会の責任とは，アロン神権を持つ若い兄弟が，メルケゼデク神権を受けるためによく準備し，資格をもてるように助けることで，メルケゼデク神権の長を助け，支持することです。

このことに関して，私たちは，ただ今紹介されたばかりの長老見込み会員プログラムを支持します。教会には，すばらしい男子成人会員であって，アロン神権を持っているか，あるいはまだアロン神権を受けていない人が何万人もいます。今，彼らの霊的福祉は長老定員会会長の手にかかっているのです。このプログラムは，これらの兄弟にとって大きな祝福，否それ以上のものになるでしょう。

ところで，今，アロン神権者の長としての責任がきて，あらためてそれについて考えていた時，私は少年の頃の思いを心に浮かべました。アロン神権を通して主が私に与えてくださった多くの祝福によって私の心は謙遜になります。

カナダのアルバータ・ステーキ部カードストーン第2ワード部で執事として聖餐のパスを務めていたときの感じをはっきりと思い出します。その同じ感じは，ソルトレーク神殿での，毎月の定例集会における幹部へのパスをするように求められた時，いつも戻ってくるのです。

私は，そのような神聖な式に参加することをいかに名誉と考えていたかを思い出しました。また，よく両親が，私がこの儀式に仕えるにふさわしいように手や心をいつも清潔にするように教えてくれたのをはっきり思い出します。

一番すばらしいレッスンの例と言えば，私の父と母が私にしてくれたものです。二番目は，私の執事定員会指導教師の例です。彼はまた私のスカウトマスターでもありました。ベンウッド兄弟は少年たちの指導がいかにあるべきかということの鏡でした。彼の指導のもとにある少年はみんな，彼の大きな愛を感じていました。彼の影響力は日曜日の朝や火曜日の晩に限られたものではありませんでした。彼の愛は1週間を通じて感じられました。私は執事指導教師に対して，12才の執事の私に教えてくれた人生のレッスンを感謝しています。そのレッスンは実に12才の時から今日に至るまで私を助けてくれています。

今日，世界中の多くの若人は，私が12才の少年のとき経験したと同じような経験をしています。あなた方が12才であろうと，それより年上であるとにかかわらず，これらのすばらしいことを経験する機会があります。

すべての人々は神の子です。しかしあなた方はさらにそれ以上のものを持っております。あなた方は主の御名において行動する権能を持っているのです。このことはあなた方を世の人々から，はっきり区別します。しかし，その権能があると，あなた方は自動的によりよい生活ができるのではなくて，その権能はあなた方に，他の人々よりよりよく生きる責任を付与するのです。

なぜならば，あなた方は神の子供たちであることを知っております。そして神の権能を持っているのです。ですから，この大きな祝福を持たない他の人々よりも，より多くのことが，あなた方に期待されるのです。

私は教会の若いアロン神権者に会うと，私の心はわくわくするのです。彼らは，神権の力によって自分のものにしたすばらしい名誉と祝福の理解力を持っています。それ故に，彼らの生活をこの確かな土台の上に築き始めております。

サモアのパゴパゴ・ステーキに行ったことがありました。ペーター・ステーキ部長は，私をあるワードの聖餐式に伴いました。私達が到着し，発表されましたが，何ら特別な変更はなされませんでした。

その日はとても蒸し暑い日でした。私達が，冷房のない粗末な礼拝堂に入った時，私は上着を脱いだ方がよいのではないかと言いました。ペーター・ステーキ部長は，急いで私に彼らのステーキ部では天候にかかわらず聖餐式には上着を着るということ，それは，彼らの最上の服を着ることによって，自分たちは主を礼拝するだけではなく主を誉れに思い，尊敬していることを主に示す手段であるのですと言いました。

私が席について見ると，聖餐台の前には祭司と執事が，きちんと座っておりました。彼らは全員，シャツを着てネクタイをしめ，上着を着ているのです。その日は非常にむし暑かったにもかかわらず。

御存知のように，島のふだん着はたいへん簡単なものです。しかし，これらのすばらしいサモアの指導者と青少年アロン神権者にとって，神聖な聖餐式に参加することは，いつもの日常的な経験とは全く違うのです。それは聖

なる務めなのです。そして，彼らの服装は，彼らが主に抱いている尊敬と敬意を表するのを助けると感じています。私はその集会のすばらしい雰囲気を忘れることができません。彼らが理解している主との関係は，彼らの神権の力を大きく伸ばすのに大事な事柄に違いないのです。

数年前のある日，私はブラジルのサンパウロでアロン神権者の聖句競争の決勝戦に出席しました。この大会はワイネ・ベック部長の指示のもとに伝道部で開催された競争の決勝戦でした。審査員の副地方部長たちは，スタンドに座っていました。一方選手は教会の中で小さなグループごとに集められました。選手は，審査員の前に呼ばれ，審査員が順不同に選んだ暗誦聖句の中からくり返すように言われたり，それからそれぞれの聖句の意味を説明するように試されたりします。

私は，普通バスケットやサッカーの試合で見るすごい熱狂と興奮をこれら若いアロン神権者たちのチームの競争で目のあたりに見ました。場所がら，騒々しくはありませんでしたが，激しい競争でした。彼らにとって聖句を自分のものにする楽しみが体の一部分のようになっていました。

南ベトナムのダナンでアメリカ軍人との集会の後で，戦闘服を着た1人の兵隊が私のところにやってきて，両親に手紙を書いてくれないかと頼み，こう言いました。「ブラウン監督，私が今日，アロン神権祭司の職に聖任されたことが私にとっていかに大きな名誉であったかということを両親に伝えていただけないでしょうか。」彼の両親は教会の会員ではないので，教会については何も知らず，それで彼らにその日，彼にやってきた大きな名誉について説明してほしいということでした。

また，先日，ニューヨークで会った見なりのよい青年は私に「ユダヤ教徒やモルモン教徒になりきることは容易なことではありません」と言いました。この青年がバプテスマを受けた時彼の両親はかた苦しい葬式にでも列席しているみたいに喜ばなかったのです。この家族に関する限り，この息子は死んでいるのです。

アロン神権者のすべてが，マッケイ大管長がよく言った神権者としてのふさわしい行ないについての責任をよく認識することは何と重要なことでありましょうか。

そして今，私は監督に，アロン神権者の指導者に，特に父親に一言いいたいのですが，私たち管理監督会は青年の偉大な目標についてあなた方と兄弟愛のきずなをもってかたく手を結んでおります。未だかつて，こんなにすばらしい青年の世代が存在したことはありません。

私はこの世代の霊は今の時代まで世に来ることを主によって引き止められていたに違いないと確信しております。なぜなら，彼らの霊はそれほどまでに特別なものなのです。しかしながら，彼らが送り込まれた世界は悪と誘惑で満ちております。そしてサタンの軍勢は猛威をふるっております。そのような中で，今私たち，家庭にあって，教会にあって若者を導くように召された者には彼らに対して神聖な責任があります。

主は家庭に関して教義と聖約の中でこのように述べておられます。「またシオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば，その子供8才の時，悔改め，生ける神の子キリストの信仰，バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば，罪その両親の頭に留るべし。」「また両親はその子供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むことを教えざるべからず。」（教義と聖約68：25，28）

このように第一の責任は両親にあります。教会の役員は両親と家族を助けるものであって，決してそれらに取ってかわるものではないのです。

監督の皆さん，あなた方は祭司定員会の会長であります。そして副監督と共に，ワードにおいてアロン神権者をつかさどる職にあるのです。若い神権者たちはあなた方の指導を必要としています。注意を必要としています。なぜなら，あなた方は特別な祝福である主の特別な召しを受けているからです。あなた方は識別の賜物を賜っております。そして，あなた方はイスラエルの判事であります。

あなた方が，これらの若い神権者と親しくなる時間を作れば，すぐに彼らは親しくなるでしょう。あなた方は多くの人々にとってシオンの山の上に立つ救い手となるでしょう。あなた方は他のワード部や支部の指導者と一緒に判事となります。

ここで私たちは，あなた方を心から愛し支持していることを知っていただきたいのです。私たちは一致した熱心な指導によって，教会のすべての青年が，尊い神の子供たちの1人も失われないのだということで，彼の持っている神権を誉れに思うよう助けることができます。私たちは今，あなた方一人一人について主に感謝しております。皆さんの上に暖かい天父の祝福がありますように祈っております。これらのすべてを，イエス・キリストのみ名を通して，話しました。アーメン。

家庭での模範

信仰ある両親は少年に神への奉仕を教える

管理監督会
H・バーク・ピーターソン

昨晩，会社から帰ったばかりの時でした。私に長距離電話がかかっていました。電話の女性の声は，「リー副管長の秘書です。副管長とタナー副管長はあなたとお話したいのですが，今はできません。もう一度お電話を差しあげたいのですが，今晩どこかにおでかけではないですか？」と言いました。

まったく突然のことに，その晩の予定は皆取るに足らないこととなり，私は，「家におります」と返事しました。そしてそのあとの，私の人生にとっては長い30分の間，あれこれと仕事を作っては腰が落着かずにいました。

電話がかかって来て，リー副管長とタナー副管長は，主からのこの召しのことを私に告げました。私はそのあとの言葉が足らなかったことをお二人にあやまらなくてはなりません。しばらくして言うことのできた言葉は，「ありがとうございます」の一言でした。私の声も涙腺もその役目を忘れたかのようでした。

最後にリー副管長は私に言いました。「ピーターソン兄弟，私たちは主から確認を受けました。これは主があなたにしてほしいと思っておられることだと知っていただきたいのです。」彼がそう言った時，私もその気持を受けたように思います。私はその時どのようにすればよいか方法を知らず，それは現在もまだわかりませんが，すべては主のなされるままに行なわれるということを知ったように思います。

私は，主がこの時代に一人の予言者を召されたことを感謝しています。予言者の側に立つ高貴な人々を召されたことを感謝しています。彼らの信頼を主に感謝しています。

私はブラウン監督の信頼を感謝しています。主が副監督を選ぶに際し彼を導かれたことを感謝しています。私は，彼と働く時それが楽しく有意義な経験となるよう，すべてを尽くして働

きたいと思います。

電話の後，私は妻を呼び寄せ，そのことを話しました。私たちは椅子に腰かけ，しばらくの間それが生活にどう影響するか，５人の娘や仕事や購入したばかりの家についてもどのような影響を及ぼすかを話し合いました。そしてその時，ほとんど無意識のように私たちはひざまずき，私たちに寄せられた信任や愛や私たちのためになされた事ごとについて，共に天父に感謝を捧げました。子供たちのことを感謝し，子供たちが天の御父を愛していることを感謝しました。また私は永遠の恋人である私の妻のことをも感謝しました。これからの時を地上で生きる恵みを彼女に与えて下さったことを感謝しました。また，今まで私たちの家庭を訪れたどの召しにも妻が忠実であったことを感謝しました。

先週の金曜日の夜の召し以来，私の心にはさまざまなことが去来しました。いったいなぜ，どうして，こうなったのだろうかと。私は自分の少年時代を回顧し，両親がごくありふれて月並なやり方ながら，子供たちに親や天の父なる神さまに対する愛を植えつけてくれたことを感謝しました。

それこそ毎週のように，４人の子供たちがつまさき立ちをして窓ガラスや網戸に顔を押しつけ，手を振りながらメサにある神殿に行く両親の車を見送ったことを，私は覚えています。

私たちは神殿についてよく知りませんでした。神殿で行なわれることについてもよくわかりませんでした。しかし父母が私たちを愛していて，私たちのためにはどんなことでもしてくれるということを，無条件に知っていました。ですから，私たちは窓の所で両親の出かけるのを見送った時に，何よりも愛している私たちを置いてよくでかけるのだから，神殿では何か大切なことが行なわれているに違いないと思っていました。私たちはそのように幼い頃から神殿の重要さを理解していました。

私たちが成長する時期に，父は15年間ワード部書記を勤めました。毎日曜日の夜，集会から帰った父が食堂に行っていたのを思い出します。父はブラインドを降ろし，樫の木のテーブルの上にその日監督に代って集めた什分の一や献金を置きました。

そしてお金を数え，計算し，１ドル５ドル，10ドルごとに束にして，アイロンとしめらせた布とアイロン台を持ってきて，紙幣に１枚ずつアイロンをかけ，しわを伸ばしていました。

４人の小さい少年が，そのことから何を受けとめたかとお思いでしょう。一つ学んだことは，主のために何をするにしても，ベストを尽くしてその方法を知るということです。主のために働く時，立派にやりすぎるということは決してありません。

世の物を多く持たないこの謙遜な人と妻である母は，何気ない行ないによって，息子たちに主に対する愛を植えつけてくれました。私がけさここにこうして立つことのできることや証を述べることのできるのは，このような経験があってこそです。私は神が生きておられること，イエスがキリストであること，この教会は神の教会であり，子供たちの救いのために神が組織された教会であることを知っています。

私はこれらが真実であることを確かに知っています。イエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。

ジョセフ・F・スミス

家族と世代の断絶

アーサー・R・バセット

ジョセフ・F・スミスは一生涯独特の風格を備えていた

親子の分裂，世代間の断絶がありふれたこととしてよく話題にのぼる昨今，愛と理解に結ばれた家族を知ることは慰めである。

48人の子供を擁したジョセフ・F・スミスを父とする家庭はそんな家庭であった。一人一人は皆それぞれに愛されていた。教会が家庭や家庭の夕べや家族生活に重きを置き始めたのが，他でもないスミス大管長の時代であったことはもっともなことである。家庭は私たちの時代に再び重視されている。

しかし皮肉なことに，スミス大管長は彼の理想とした家庭生活には恵まれずに育った。10代の初めにはすでに両親を亡くしていたのである。彼が家族の平安をあのように切実に感じたのもこのゆえであろう。ジョセフの父ハイラム・スミスは，この将来の大管長がわずか6才の年に暴徒の凶弾に倒れたのであった。

ハイラムが予言者ジョセフと生涯の大半を共にし，ジョセフが兄を自分を愛するように愛していたことはよく知られているところである。主も「彼の心実直なる故に」また「われの前に義しきことを愛する故に」ハイラムを愛された。（教義と聖約124：15）

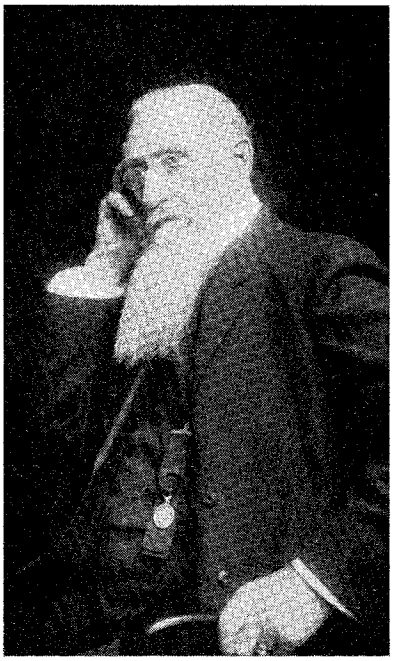
ジョセフ・F・スミスは一生を通じて，父親を特別に愛した。その愛はすばらしい父子関係から生じたものであった。

ハイラムが馬に乗り，カーセージに向かった時の，ジョセフの心に残る父親の最後の記憶はなまなましいものである。スミス大管長は後に述べている。「馬からおりずに，父はくらの上からかがみ込んで，下にいる私を抱きあげた。父は私にさよならのキスをして再び地面に立たせ，私は走り去る父を見送った。」この経験のあと不安な日々が続き，ついにあの恐怖の夜が来た。「私は殺害の夜を覚えている。…一人の兄弟がカーセージからかけつけて，暗やみの中から家の窓ガラスを叩き，『スミス姉妹，御主人が殺された』と，母に叫んだ。」これは彼がわずか6才の時のことであった。大人となってからも，彼はその晩の不安と恐怖をなお覚えていた。

その2年後，ジョセフ・F・スミスと未亡人になった母親は，大勢のモルモン開拓者と共にアメリカ大陸横断の旅に出なければならなくなった。荒野の

旅をしながら，彼はそこで母親から信仰について多くのことを学んだ。その2つを簡単に語ろう。

初めの話は，荒野の横断中に牛をなくした話である。スミス大管長はこのことを，「祈りの効果が実際に現われた最初の経験」と言っている。その印象は心に残って，全生涯にわたり彼を助けたのであった。



スミス家の人たちがある朝起きてみると，群れの中の最上の牛が数頭いなくなっているのに気がついた。ジョセフ・Fとその叔父のジョセフ・フィールディングは捜しに出かけたが，午前中捜しまわっても徒労に終った。二人は疲れ，がっかりしてテントに帰ってきた。すると彼らは，メアリー・フィールディング・スミスがひざまずき，牛をなくすと目的地への到着がずっと遅れるので，捜している二人を助けて下さいと神に願っている姿を見た。

この若い開拓者の母親は祈り終ると自分の兄弟と息子に朝食をとるようにと言い，自分は家畜を捜しに行くと言った。彼女は，もう捜しても無駄だという兄の言葉を聞かずに，川をめざして出かけて行った。まず兄の言葉を意に介せず，次にはミズーリの大荷車隊の牛飼いが朝逆方向に向かう牛を見たと言うのも気にかけずに，メアリー・スミスはひたすら川へ向かった。岸辺に着いた彼女は，ふり返って兄と息子を呼ぶ身振りをした。2人がかけつけると，人目から隠れた柳の木に牛がつないであるのがみつかった。開拓者たちが出発した後で戻って来ようと，だれかがそこにつないでおいたのは明らかであった。

二つめの経験も1頭の牛をなくし，メアリー・フィールディング・スミスと意見を異にした幌馬車隊長から冷いしうちを受けた話である。開拓者団のように人々が大勢集まる時には，腹の立つことも不和もありがちである。スカウト・キャンプや軍隊や少女たちのキャンプに加わった経験がある人なら，だれでもその問題がわかるであろう。

そのように開拓者たちの間にも，摩擦の生じるのは避けがたいことであった。

この場合意見の相違は，スミス未亡人が盆地に着くには家財道具が少なすぎるので，グループの重荷になると管理者が感じたことから始まった。ついに彼は「目的地まであなたをおぶっていくか，ここにおいていくしかないですね」とまで言いきった。メアリー・フィールディング・スミスはそれに対して，「あなたを谷底につきおとしてでもあなたの助けは受けません」と答えた。これで言い合いのけりがつき，隊は出発した。全員はできる限り進んでプラット川とスイートウォーター川の中間あたりまで来た時に，スミス姉妹所有の牛の頭が，毒を飲まされたような様子でくびきにつながれたまま，倒れた。一目見て，その牛が瀕死の状態であることがわかった。牛はけいれんして硬直し，だれもがすぐに死ぬと思った。あとに続く，幌馬車はストップし，隊長が「この世の終りが来たかのようにたけり狂って」走って来た。

「言った通りじゃないですか」隊長は言った。しかしそれは違っていた。スミス未亡人は聖別された油を取り出すと，兄とジェームズ・ローソンに牛をぜひともなおしてほしいので，病人をいやす時と同じようにどうぞこの牛を祝福して下さいと頼んだ。彼女の熱心な願いは聞かれ，二人の兄弟たちは牛の頭に油を注ぎ，牛を置いて，破壊者の力をけん責した。するとすぐに牛は起き上がり，数分のうちに何ごともなかったようにくびきをひき始めた。これは隊の人たちにとって大きな驚きであった。一行がそう進まないうちに，また他の牛が最初と同じように倒れたが同じようにして立ちあがった。それは3回繰り返された。

これらのことの一部始終を子供のジョセフ・F・スミスは見ていたが，叔父が現わした神権の力を感じたと共に未亡人となった母の深い信仰に注意をひかれた。母親は彼の一生に一つの強い印象を残すこととなったのである。盆地に到着して4年の後，彼が14才の

時に母親は死んだ。そうして彼は両親を失ったのである。

ジョセフ・F・スミスは15才の年に長老に聖任され，エンダウメントを受けて，宣教師としてハワイへ遣わされた。そこで彼は病み，年にそぐわない非常な苦しい経験をした。しかしそれらの経験は彼の心を深くし能力を広げて，生活に新しい霊的視野を与えることとなった。そのような一つの経験はおもに家族についてのある夢である。彼は伝道中，非常に落胆していた時にこの夢を見た。「私には……まったく友人がなかった。貧しく無知な……人々を除いて。私は貧しく知識も知恵もない小さな者で，少年さえまともにみつめられない状態だった。……大人とは顔を合わせることもできなかった。

夢にはいろいろなことが出てきたが中心は一人の男の子を予言者ジョセフ・スミスに差し出すことであった。夢の中で，彼は父と母に会い，母から1人の子供を手渡された。彼はその子を予言者ジョセフのところへ連れて行き，彼に渡して戻ってきた。それからジョセフ・スミスとハイラム・スミスとブリガム・ヤング（この時にはまだ生きていた）が3人で赤ん坊を囲み，祝福を施し，それが終ると予言者が赤ん坊をジョセフ・F・スミスに返した。若い長老が赤ん坊を予言者ジョセフに差し出した時，彼は手を予言者の胸に触れて，予言者が本当にいるかどうかを確かめてみた。そして赤ん坊を返してもらう時，ジョセフ・Fはもう一度それが夢か現実かを確かめようとした。

「私は，それがどういうことか知りたかった。だからわざと予言者に触れた。彼の胸は暖かかった。彼は私の心がわかったかのようにほほえみかけた。彼は子供を私に渡し，私はその子を母に渡し，母は子供を膝に抱いた。

その朝起きると，私はまだ若いながらも一人前の大人だった。私の恐れるものはこの世に何一つなかった。……もし私が主のみ前にいくばくかの清く正しく善い人間であるとするならば，あの時受けた示現，あらわれ，証が，今の私を作ったのである。あの経験はあらゆる試練の時，あらゆる困難の時に私を助け出してくれた。」

大管長の愛用した帽子と洋服ブラシ，ステッキ

スミス大管長の言葉から，彼がこの経験で当時の予言者に対する証を強められたことを強調しているのがわかるが，私たちはこの夢からスミス大管長の語っていないもう一つのことに気が

つく。それは一人の男の子を予言者ジョセフ・スミスに祝福してもらうことである。スミス大管長の息子のうち二の人がのちに十二使徒評議員となり，その一人，ジョセフ・フィールディング・スミスは教会の大管長となって，あたかもジョセフ・スミスから続いた予言者の外套を着せられたことを考えるならば，若い宣教師として「ハワイの山中1人孤独にむしろにすわった」時に受けたこの夢に，予言が含まれていなかったとは誰も言えないであろう。

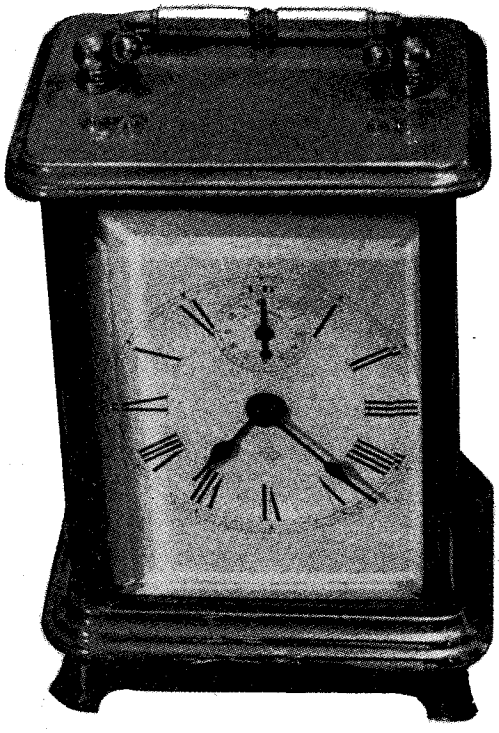
時と生活は多くのことを変えるが，ジョセフ・F・スミスの場合もそうであった。彼の将来には，孤独で家族に恵まれない生涯が待ってはいなかった。20才の時，2回目の英国への伝道に出発する少し前，彼はレビラ・クラークと最初の結婚をした。この伝道中は，自分を待っている人がいるという慰めを得ることができた。この妻のあと，5人の妻が加わり（彼は多妻結婚の実施されていた時期の人であった），48人の子供を得た。彼の家族は特に金持ではなかったが，愛，すなわち愛だけに頼ることを学んだ人々に生まれるそういうたぐいの愛により，祝福されていた。この愛を示す美しい話を二つ彼が父親になりたてで1日に生計費ぎりぎりの3ドルの賃金で生活していた頃から紹介しよう。

あるクリスマスの経験は特に痛ましい。彼は貧困であったことや周囲の人が皆金持に見えたことを語ったあとでクリスマスの間近いある日，「子供たちに何か」を買うために町へ出かけたことを話している。

「私は，クリスマスくらいは子供たちの喜ぶ物を買ってやりたいと思った。しかし1セントすらなかった。私は中心街を行きつ戻りつしながら，店という店のウィンドーをのぞき込んだ。それから私は，こそこそと人目を避けてしゃがみこみ，痛む心がいやされるまで子供のように泣き続けた。しばらくして家を出た時と同じく手ぶらで帰宅し，子供たちと遊んだ。子供たちのために私の心は明るくなり幸せを感じた。」

もう一つの経験は，彼が「ドド」と言って愛したマーシー・ジョセフィンという名の最初の女の子をなくしたことである。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の長姉にあたる幼いドドは，3才の時に死んだ。娘を連夜看病し，抱き，励ました父親は，娘が一睡もしなかった晩はことに悲しんだ。翌朝になると，娘は「パパ，きょうの夜は私眠るわ」と言った。その言葉は「胸をつきさした。」それから間もなく，彼女は死んだ。その時の彼の悲しみは妻エドナに宛てた手紙の中によく表われている。

「とても手紙を書けそうに思えない。今も私の心は痛み，すべてが混沌としている。つぶやいてよいなら，神よ許したまえ，私の魂は，激しい嘆きに試みられ，心は断腸の思いに傷ついている。私は孤独だ。家庭も私にとって寂しく陰うつだ。……私のかわいいドドは逝ってしまった。それが私にはどうしても信じられない。そんなことがあっていいのかと私の心は問う。見ても何も無く，聞いても音はしない。部屋を歩きまわるが，どこも無人で寂しく荒れはてている。庭の散歩道を見おろし，家のまわりをながめ，あの光輝く太陽の髪とバラ色のほおが見えないかとそこかしこを見まわすが，悲しいことに小さな足音は聞こえてこない。パパへの愛をキラキラと輝かす小さな瞳はなく，やさしく尋ねる声もない。首にまとわりつく小さなかわいい手はなく，子供らしく無邪気にかわいいバラ色の唇で返してよこすあの私の好きなキスや抱きついてくる姿もない。あるものと言えば人けのない小さな椅子だけだ。あの子のおもちゃは隠され，洋服は片づき，ただ心を踏みくだく寂り



スミス大管長は時間を正確に守る人として知られていた。これらの時計は大管長が長年愛用したものである。

ょう感だけが私に重くのしかかってくる。あの子はここにいない。あの子は逝ってしまった！……私はもう狂気の域に踏み込んだ気持だ。ああ，神だけが，私がどんなにあの子を愛していたか，あの子が私の喜び，光だったかをご存知だ。」

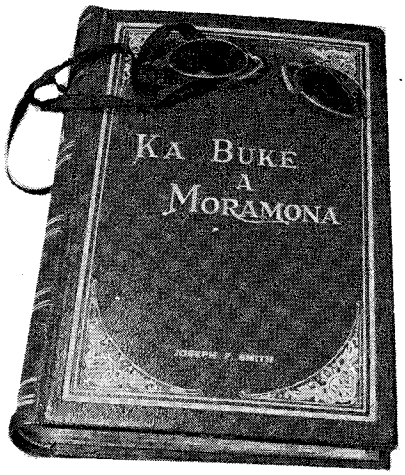
46年後，自身の死のわずか2年前，スミス大管長は日記の中に，「きょうは私の初子マーシー・ジョセフィンの49回目の誕生日である。何よりもかわいらしく知恵にたけた少女。彼女は3才になろうとする1870年6月6日，私の全生涯で最も楽しく幸せな美しい3年の思い出だけを残して死んだ」と書き記している。

いかなる世代間の断絶が，このように流れ続ける愛をせきとめることができるであろうか。また，スミス大管長が主の予言者となってすぐあとに述べた次の言葉の真実とその重みを，誰が疑い得ようか。

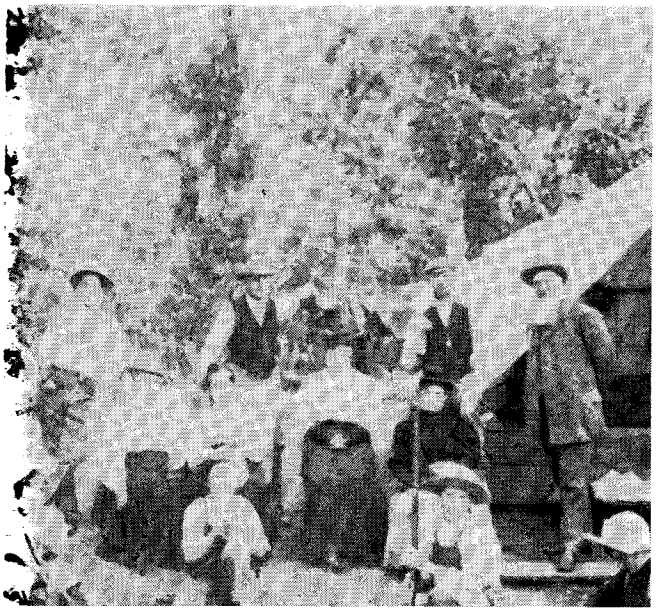
「家庭から離れて本当の幸福のあろうはずがない。家庭の影響力を清く保つためのあらゆる努力は，そのようにして犠牲と労苦を払い，よい家庭を築こうとする人々を高めるものである。男も女も家庭生活を何か他の生活で代用しようとすることがある。彼らは，家庭は束縛であり，一番の自由は意のままに動きまわれることだと自分に信じこませる。奉仕なしで幸福は得られない。家庭を神聖にし，家族生活を維持し進展させる働きこそ最高の奉仕である。

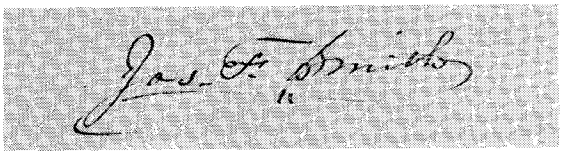
家庭での責任を回避する人々は，社会福祉の重要な一要素に欠けている人々である。彼らは社会での楽しみ事にふけっているが，その楽しみはうわべだけであって，あとの生活に後悔を生むのである。

スミス大管長所有のめがねとハワイ語のモルモン経



大管長は好んで家族と戸外に出かけた





予言者の署名

ジョセフ・F・スミスの略歴

(1838—1918)

	年令	
1838年11月13日		ミズーリ州ファーイーストで出生
1844	6	父ハイラム・スミス殉教
1846—48	8—10	幌馬車隊で大陸横断
1852	14	母死亡，孤児となる
1854—57	16—19	ハワイ伝道
1859	21	レビラ・A・スミスと結婚，ソルトレークステーキ部高等評議員に召される
1860—63	22—25	英国伝道
1865—74	27—36	准州下院議員となる
1866	28	使徒に聖任され，副管長に召される
1874—75	35—37	ヨーロッパ伝道部伝道部長
1877	39	再びヨーロッパ伝道部伝道部長
1880	42	ジョン・テイラー大管長のもと第二副管長となる
1884—91	46—53	合衆国南西部，メキシコ，ハワイ，カナダ，合衆国東部で働く
1901	63	大管長に支持される
1906	68	ヨーロッパを訪問した最初の大管長となる
1919年11月19日	80	死去

新しい教会幹部

七十人最高評議員会会員ブルース・レッド・マッコンキー長老（57）が十二使徒評議員会の空席を埋めるよう召された。また3名の十二使徒評議員会補助を含む4名が新たに教会幹部に名を連らねた。

マッコンキー長老の後任として新たに七十人最高評議員会会員に召されたのは，ユタ州プロボ出身の教育者レックス・D・ピネガー長老（40）である。ピネガー長老は北カロライナ・バージニア伝道部の伝道部長である。それ以前には日曜学校中央管理会会員として働いた。

新しい十二使徒補助は以下の通りである。

O・レスリー・ストーン（69）　十二使徒地区代表，前ソルトレーク神殿長，オークランド・バークレー（カリフォルニア）ステーキ部長

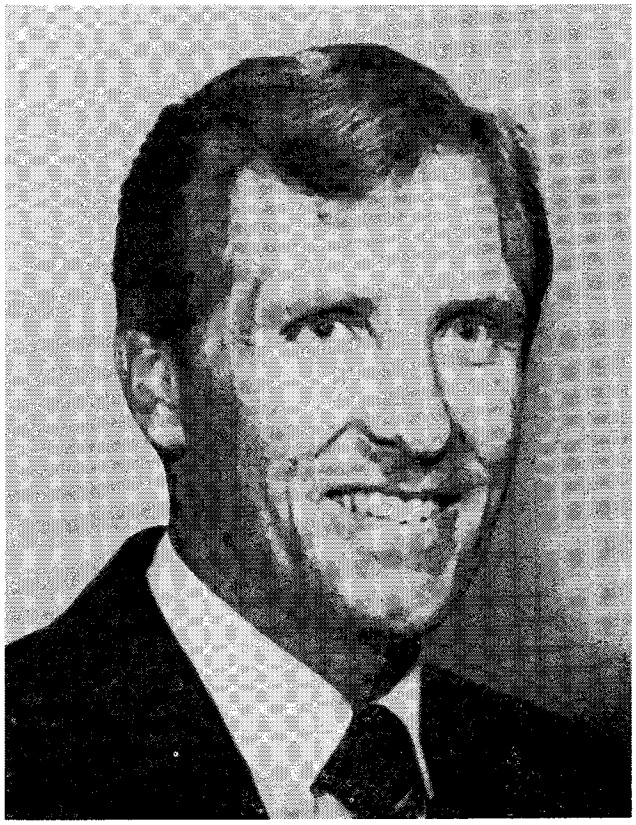
ジェームス・E・ファウスト（52）　十二使徒地区代表，前コットンウッド（ユタ）ステーキ部長，ユタの著名な弁護士

L・トム・ペリー（50）　マサチューセッツ州ウエストン出身，前ボストンステーキ部長，傑出した事業家

新しい教会幹部は，新大管長会が支持された聖会において支持を受けた。聖会は第142回半期総大会の第1回目の集会としてリー大管長の司会のもとに行われた。

これにより現在の十二使徒評議員会補助は合計18名で，1941年で最初の5名の補助が召されて以来最多数を数えることになった。

ブルース・R・マッコンキー：十二使徒評議員会会員



レックス・D・ピネガー：七十人最高評議員会会員

O・レスリー・ストーン
十二使徒評議員会補助

ジェームス・E・ファウスト
十二使徒評議員会補助

L・トム・ペリー
十二使徒評議員会補助

神権MIAプログラム
大管長会より発表される

大管長会は，これまで相互発達協会によって運営されてきたプログラムの再編成を発表した。

これによると，神権中心のＭＩＡが２つ，それぞれ別個に設けられることになる。一つは12歳以上18歳未満の青少年のためにアロン神権ＭＩＡ（Mutual Improvement Association）で，このプログラムは監督の管理下におかれる。もう一つはメルケゼデク神権ＭＩＡ（Mutual Interest Association）で，これはさらにヤング・アダルト（18歳以上25歳以下の未婚者）とスペシャル・インタレスト（26歳以上の未婚者）に分けられる。また，既婚者の活動は神権定員会の管理下に行なわれることになる。

ハロルド・Ｂ・リー大管長は，この新しいプログラムを発表するにあたり，神権相互調整の改善に寄与する点からこれを採用したと語った。

この新しいプログラムの基本は，ＭＩＡ活動が未婚者のために行なわれるという点である。既婚者は定員会で計画された活動に参加する。

さらに大管長会は青少年プログラムの新しい会長会を発表した。この会長会は管理監督会の管理下に働く。ロバート・Ｌ・バックマン，リグランド・Ｒ・カーティス，ジャック・Ｈ・ゴーズリンド・ジュニアが青年男子の会長会，ルース・ハーディー・ファンク，ホーテンス・Ｈ・チャイルド，アーデス・Ｇ・カップが青年女子の会長会を構成する。

ＹＭＭＩＡ中央管理会会長のＷ・ジェイ・エルドレッジおよびその副会長であるジョージ・Ｉ・キャノン，ロバート・Ｌ・バックマン，ならびにＹＷＭＩＡ中央管理会会長のフローレンス・Ｓ・ジャコブセンおよびその副会長であるマーガレット・Ｒ・ジャクソン，ドロシー・Ｐ・ホルトも解任された。さらに中央管理会会員全員が解任された。

成人活動プログラムの顧問は，十二使徒評議員のトーマス・Ｓ・モンソン，ボイド・Ｋ・パッカー，マービン・Ｊ・アシュトン，ブルース・Ｒ・マッコンキーが務める。これらの顧問はメルケゼデク神権ＭＩＡのために働き，同時にメルケゼデク神権定員会を通じて運営される教科課程，奉仕計画活動の発展を監督する。既婚者，神権者の未亡人および長老見込み会員は神権定員会活動に参加する。

この４名の十二使徒による諮問委員会のもとに１名の部長と２名の副部長が召され，メルケゼデク神権ＭＩＡを指導する。部長として召されたのは十二使徒評議員会補助のジェームス・Ｅ・ファウスト長老，また同じ十二使徒評議員会補助のマリオン・Ｄ・ハンクス長老，Ｌ・トム・ペリー長老が副部長として召された。ヤング・アダルトおよびスペシャル・インタレストグループの奉仕計画と活動はこの３名の管理下に行なわれる。

アロン神権ＭＩＡプログラムは，ステーキ部の段階においてはステーキ部長会およびステーキ部アロン神権委員会が管理指導する。このプログラムに対して他の指導者と顧問が必要であれば，ステーキ部長会が召す。

ワード部の成人によるアロン神権ＭＩＡの監督は，監督会アロン神権主事，アロン神権定員会指導教師（ＹＭＭＩＡ副会長）ならびにＹＷＭＩＡ会長会があたる。

メルケゼデク神権ＭＩＡプログラムのヤング・アダルトは末日聖徒学生協会会員も含めて，18歳以上25歳以下の未婚者のためにステーキ部および地区単位で組織される。末日聖徒学生協会はひき続いてその機能を果たし，大学内における調整機関となる。インスティチュートに出席している学生は，今まで通りそこにおいて福音のレッスンを受けるが，これらの学生の活動は，ステーキ部および地区ヤング・アダルトプログラムの一部として行なわれる。

未婚の26歳以上の人々のためのプログラムとして，必要に応じ，ステーキ部および地区単位でスペシャル・インタレストを組織する。

これらのメルケゼデク神権ＭＩＡグループの運営に際して十二使徒地区代表が地区顧問となる。またヤング・アダルトとスペシャル・インタレストを地区単位で別個に組織してもよい。その場合は１名のステーキ部長が神権顧問として働き地区内の２つのステーキ部から各１名の副顧問を出す。必要ならば他の地区役員を選ぶ。

ヤング・アダルトとスペシャル・インタレストは，ステーキ部の段階においてはステーキ部長会，高等評議員会，ステーキ部メルケゼデク神権委員会により管理される。また２つのグループは高等評議員会アドバイザー，ステーキ部長により召された役員，それに必要であればワード部代表により別個に運営される。

大管長会は発表に際して，ＭＩＡの著しい特色が常に教会スポーツプログラムにあったことを指摘し，このプログラムを継続する旨を語った。同時にロードショウ，ダンス・フェスティバルなど，ＭＩＡがこれまで関係してきた活動プログラムもこの組織変更の影響を受けないことになる。

日本東伝道部

あけまして，おめでとうございます

日本東伝道部伝道部長　ラッセル・N・堀内

今私たちは年頭に立っています。「一年の計は元旦にあり」という言葉がありますが，新年にあたって1年をどう過ごそうかということより，どう最後までやり遂げようかと考えることが大切でありましょう。

私たちは，目先の栄光は入手できますし，目先の勝利も得ることができましょうが，これらは，移り行く時に共に色あせてしまうに違いありません。

従って，私たちの求めるもの，願うものは何かと言えば，実に終わりまで耐え忍ぶための証，信仰，勇気，強さを持つこと以外にはありません。

過ぎ行く日ごとに，自分は頑張った，そしてきのうの自分よりもきょうの自分の方が立派だと言うことができるのです。

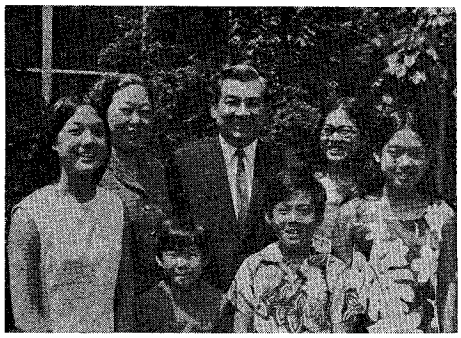
新年を迎えようとする私たちにとってのチャレンジとは実にかかるものであり，それは決して新年を迎えようとする時だけのことではなく，永遠の救いにあずかろうとして励む私たちにとって毎日のことなのです。

皆様方の上に主の祝福がありますように心からお祈り致します。

日本伝道部

新年を迎えて

日本伝道部長　トモスエ・アボ



新年を迎えるにあたり，私のみたまは2つのことに対する感謝で一杯になります。それは教会に対してであり，また人の心の必要を満たしてくれる教会の教えに対してです。救い主の教えほど美しくまた人間の幸福にとって必要なものはほかにありません。確信を持てば持つほど，祝福は大きくなり幸福になっていきます。

救い主は言われました。「わたしがきたのは羊に命を得させ，豊かにさせるためである。」これは人に与えられた約束のうち最も偉大なものであり，神のみが与えることのできるものです。なぜなら神のみが命を与えることができるからです。教会は，人間に豊かな生活をもたらす仲立ちです。またすべての人間が霊的にも知的にもより高い生活を求め，勤勉に生活して，豊かな人生を送るように導いてくれるところです。

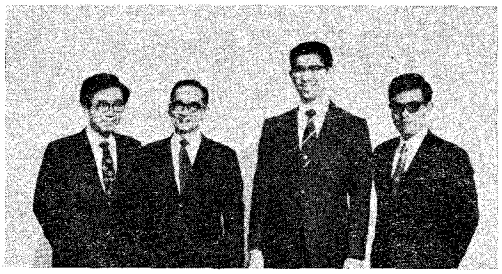
末日聖徒の立場から考えますと，人生の真の目的は，神のみたまの助けと個人個人の努力とにより，人間として完成することです。

真実の生活は，まわりに存在する最善のものと関わりを持つ生活です。「欲望，快楽，高ぶり，金もうけのみに生き，思いやり，清らかな愛，詩歌，花，星，神，永遠の望みがないとしたら，それは死んだも同然である。」ある偉大な作家がそう書いています。人間は単なる動物ではありません。霊的な存在です。そして創造主との関係を知ろうとするどうしようもない望みがあらゆる人間に与えられているのです。人間のみたまは神を求めています。そして人間は，自分がほんの短い間に人生の流れの中に放り込まれた単なる物体ではないのだということを知るのです。人間の心の内には，自らを立ち上がらせ，環境を制し，肉体に打ち勝ち，より高くすばらしい世界に住むように促す何ものかがあります。

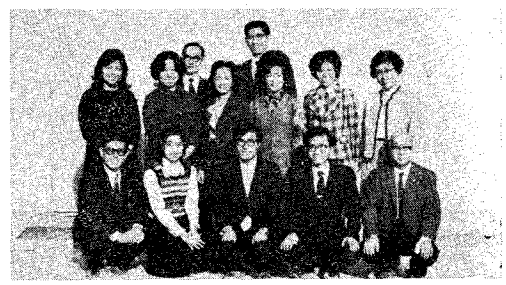
人間には自らを向上させる聖なる力が存在します。教会員は，それが主から授けられる聖霊の賜であることを知っています。人間はこの地上に来る前にも生きていました。そして今，自らの肉体を聖なる宮居として霊的生活を完うしようとしているのです。

豊かな人生へと導く原則は，人生のいかなるところでも，またいかなる人へも与えられるものです。私は日本の教会員にこう申し上げたいと思います。この神権時代にもたらされたイエス・キリストの教えを固く守られるように，次のように言われた救い主の教えに沿って霊的な生活を送られるように。「わたしがきたのは羊に命を得させ，豊かにさせるためである。」

兄弟姉妹にとって新年が幸福なものであり，成功に満ちたものでありますように。



日本中央伝道部



旧年中の献身的な働き，信仰による犠牲，心暖まる会員の励まし，その他神の子にふさわしい行為と心づかいに対し，私たちは心より感謝します。同時に多くの進歩発展の約束されている新しい年の喜びを心よりお祝い申し上げます。

1972年は日本中央伝道部において，会員一人一人の信仰のあらわれに目をみはる多くのことがありました。大阪ステーキ部の発足，富山，津，明石の支部開設，西宮支部（現ワード部），名古屋支部礼拝堂の建築完成など目に見えて主の業は大きく前進しました。しかし前進する車のあとにとりのこされた会員も大勢います。（このことが今年の私たちの主な関心事となるでしょう。）

愛する兄弟姉妹たち，私たちは皆様の献身と犠牲に心より感謝しております。また皆様の信仰の証なしにこの末日の主の業の前進はありえません。新年を迎えるにあたってもう一歩前進する気構えをつくりましょう。

私たちが多くのこの世のことを犠牲にしてまでも喜んで参加する末日聖徒イエス・キリスト教会は，主イエス・キリストの教会であり，この教会の導き手はイエス・キリスト自身であります。私たち全人類が救われる方法は，イエス・キリストを信じ，この末日に回復されたイエス・キリストの福音に生きること以外にないのです。

教会の諸活動，集会に参加し，会員個々の家庭を訪れ，先祖の探求をし，求道者や新しい人々にフェローシップし，不活発な会員を再活発化するよう励ましたり，地方部大会，指導者会に出席し，指導と訓練を受けたり，いろいろな指導者，役員に任命されたりすること，什分の一，知恵の言葉の戒めを守り，安息日を聖く保ち，断食をする，すなわち，末日聖徒イエス・キリスト教会を通じて与えられるあらゆることは，私たちの愛するすべての人々がイエス・キリストの福音の中に生きることによって，この世において平安な生活を，次の世において「永遠の生命」を受けることができるようにという，偉大なイエス・キリストの福音の理想を実現するためのものです。この業によらなければ，真の幸福を私たち全人類にもたらすものはないのです。この末日の主の業を大きく前進させましょう。新しい年には新しい悔改めと謙遜な心をもって，求道者，新会員，不活発な会員，その他愛する人々がイエス・キリストの福音の中に生き，喜びを見いだし，共にこの業のため車を押すよう励まし，導きの手をさしのべようではありませんか。

「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命をもたらすなり。」（モーセ１：39）

清水　勝　伝道部長
牧瀬　十二郎　第一副伝道部長
上野山　研次郎　第二副伝道部長

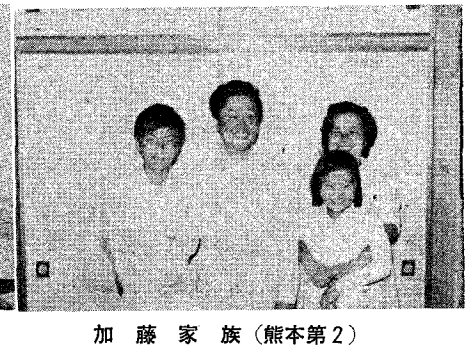
日本西部伝道部

「我が羊は我が声をきく」

「我が羊は我が声をきく」（ヨハネ伝10：27）との主のみ言葉の通り，多くの宣教師，会員の努力により昨年はたくさんの家族が改宗しました。ある家族は集会を待つわずかな時間もむだにしなかった宣教師の働きによりある家族は福音に忠実に生きた姉妹の努力により両親が，またある家族は破滅寸前であった時に，それぞれ主のみ言葉を聞き，従ったために真の救いの道に入ることができました。

小野家族（佐世保）

世良家族（塩山）



加藤家族（熊本第２）

甲　斐　家　族（宮崎）

橋　本　家　族（松江）

中　条　家　族（延岡）

「汝らはまた，わが選民を集むべき召を受けたり。そはわが選民はわが声を聞き，その心を頑固にせざればなり。」（教義と聖約29：7）今年もまた多くの家族がこの回復された真のイエス・キリストの教会に導かれ，本当の家庭を築くことができますようにみんなで力を合わせ，祈り，努力できるよう祈ってやみません。

東京ステーキ部

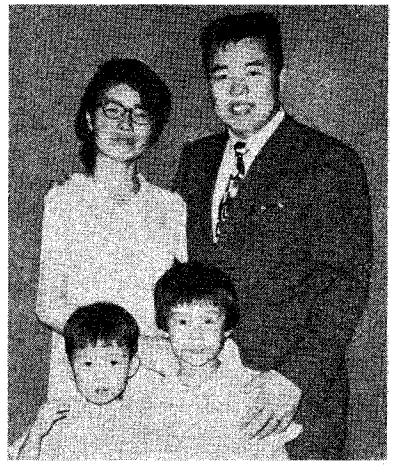
田中ステーキ部長御家族

東京ステーキ部長　田　中　健　治

新年あけましておめでとうございます。この素晴しい御あいさつを新しい希望と共にお送りできますことを感謝しております。昨1972年，昭和47年は主の戒めを守るよう真剣に過ごされた方々にとって実に良い年でした。いつも兄弟姉妹，友人の思いやりと励まし，また叱責すらも甘い味の祝福として人格の向上からもたらされる絶えざる喜びをお受けになり大晦日の夕べ，胸の中に火の燃えるような思いを抱く祈りを静かにお１人で，あるいは愛する御家族と共に捧げられたことでしょう。しかし又１年を振り返って，ああすればよかったこうしたかったと，より高い標準から見て，悔いたり悩んだり，苦しい思いを抱かれた方があるかもしれません。また長い病いの苦痛がベッドの上に絶え間なく押し寄せ，あるいは人との不和に心がさいなまれて望みが弱まり，今まで確信した事柄の真実さに霧がかかり，理想と現実の隔たりだけが大きく見えて「まだ祈り聞かれざるか」と迷う思いを内心に秘めて過ごされた方があるかも知れません。それでも私は新年のお祝いをすべての方々に心から申し上げるものです。なぜならば，すべてを見ておられる父なる神とイエス・キリストは生きておられるからです。そしてその証拠にみ前から聖霊をお送り下さり，私たちの準備によってはっきりとみたまの導きと一致を与えて下さるからです。新しい年の目標は何でしょうか。それは大昔より季節のたびに多くの方々によって選ばれたものを決めました。「罪（間違い）を悔い改めて戒めを守ろう」知恵の言葉を守り，什分の一を最初に納め，断食を行い，ワード部支部の建設維持のために喜んで主の代りに必要資金を支え，謙遜に祈り勉強し，先祖のために系図を整え，夫婦家族が互いに愛し合い，家庭の夕べを必ず開き，友人や隣人と良い交際をし，将来の永遠の家庭を築く基礎となる黄金律を身につけ，ホーム・ティーチングや仕事，学業に精出し，必要な食糧を貯蔵して予言者のチャレンジに応え世の悪の誘いに見向きもせず，あらゆる機会に福音の光を輝かし，特に御自分の両親家族に愛を率直に表わしてキリストの教会へお連れするように働き，召された責任をへり下って主の援助を得られるほどに真剣に果たし，正しい望みの必ず我が身に成るのを確信して疑わず，忠実に指導者に従って毎日を過ごします。自分の心を常に省み，憎しみ，ねたみ，敵意不品行，怒り，分派などみたまの住み給わない状態を見つけたらただちに悔改めて清くなるならば，必ず例外なく清い喜びの訪れを続けて受けられるに違いありません。こうして『戒めを守らば地に栄ゆべし』は日本のまた東京の地においても事実となるのです。幸福な御家庭が今年も多く神様に加わる年，本当にうれしい年が明けました。おめでとうございます。

私の証

大阪ステーキ部長
神尾　昇



1970年，ＥＸＰＯ'70のはれやかな舞台もようやく幕を閉じようとしている９月，第一回の東京ステーキ部大会において，ベンソン長老より面接を受けました。

私は仕事のことで再び神戸の地へ転勤するよう会社の辞令を受けておりました。私はその時，東京第五ワード部の監督に召されており，新しい会社の責任を受けるべきかどうか迷っておりました。この時，私を助けてくれました方が小松地区代表であり，田中ステーキ部長でありました。彼らの良きアドバイスで私は神戸への転勤を決心いたしました。

ベンソン長老は私の解任の面接の時に私に向かってこう話されました。「神尾兄弟，あなたは大阪の地で神様の仕事をするはずです。教会の新しい責任を喜んで受けて下さい。あなたは大祭司であり，監督を経験していますが，小さな責任であっても謙遜に受けて下さい」と。

私の新しい責任は神戸支部長の責任でありました。岡崎伝道部長は私を本当に歓迎して下さいました。次の責任は地方部長として大阪を統合することでした。

大阪地区の指導者となって二年間，一応のパイプも引けステーキ部への道が開けてきた1972年６月，私は会社の社長から東日本の総責任者として東京へ転勤してくれないかと要請されました。大阪地方部はＥＸＰＯ'70と良き伝道部長達の指導で日ごとに大きく成長し，良い指導者が輩出しており関西における私の責任がこれで終了したと思いましたので，私は社長の要請を受けるべく全社の人事異動に着手しました。人事異動はスムーズに実行され，東京支店長と私が異動すればすべての人事が完了するところになりました。

９月11日，ベンソン長老と小松地区代表が大阪の地を訪問されました。私達全役員は，ベンソン長老の面接を受けました。ベンソン使徒は私の人事異動を知っておりましたので，私に会うや，「あなたの異動を止めることができますか」と私にたずねました。

私に本当にびっくりして今回の人事異動の内容について使徒に説明しました。彼は私の話を良く聞いて下さいましたが最後に私をステーキ部長に召したい，関西にこのまま残ってはくれないかとたずねられました。

事の重大さに即答することもできないでいますと，ベンソン長老は，「社長と話し合って本日中に回答して下さい。」と申されました。中島社長は東京へ出張中でしたので急いで東京へ電話しましたが，外出中で連絡できず長い間待ちました。夜11時すぎ彼から電話がかかってきました。私は教会の新しい責任のため東京への転勤ができなくなったことを彼に告げました。社長はびっくりして事情を詳しく話すように言いましたので，ステーキ部長の責任と教会の召しについて彼に話しました。長い電話でのやりとりの後で，突然，彼はこう言いました。

「神尾君，教会と仕事のどちらをとりますか。」私には非常につらい質問でした。私は会社の仕事も社長の人柄も本当に好きでしたし，社長も私を本当によく信頼してくれておりました。しかし，私は「まず，神の国と神の義を求めよ」という聖句のとおり「教会をとります」と社長に告げました。社長は「そうか」と一言いっただけで電話は切れました。

小松地区代表と，清水伝道部長が私に本当に良いアドバイスをして下さいましたので，私は大阪ステーキ部で働く決心を固めました。

「私は主が命じたもうことを行って行なう」というニーファイの言葉どおり，神様の，使徒の言葉に忠実に従うことができましたことを本当に感謝しております。

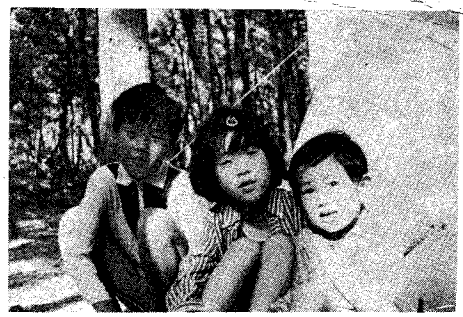
現世の地位，名誉等の誘惑に打ち克てたことを感謝しております。また私の良き相談相手であり，先輩である小松地区代表，田中ステーキ部長，清水伝道部長に感謝しております。そして，私の決心を支持してくれました愛する神尾姉妹に本当に感謝しております。私は恵まれて良き副ステーキ部長，高等評議員，補助組織の役員の助けを受けています。彼らの働きに感謝しております。

私はこの末日聖徒イエス・キリスト教会が神様の真の教会であることを心から証いたします。自分のすべてを教会のためにささげることができることを感謝しております。

私　の　証

プライマリー

東京ステーキ部ひばりが丘支部　津　端　み ち 子



津端姉妹のお子さんたち

「プライマリー」という言葉を聞いたのは，一時教会から遠ざかっていた私達家族が，再び行き始めた時でした。第2ワード部では，遠い子供達のために，同じ土曜日にホームプライマリーが開かれておりましたが，そこへ出席するようにすすめられました。

私には，長男，長女，次男の3人の子供がおりましたが，長女の真由美は土曜日に幼稚園で開かれているヤマハ音楽教室へ通っておりましたし，また次男の寿明は先天性股関節脱きゅうで，胸から足首まであるプラスチック製のコルセットをはめており，おんぶして長い時間歩くのは大変でしたので，あまり気が進みませんでした。でも長男の穣治だけでも出席させようかと思い，バスと電車を利用しますのでちょっと心配だったのですが，プライマリーの方々が助けて下さるとのことなので，一人で行かせました。

穣治はプライマリーと担当の教師からとてもよい印象を受け，レッスンの内容も始めから終りまで熱心に話してくれました。帰りはプライマリー担当の神権者の方がバスに乗る所まで送って下さいました。冬の寒かった日，バスを待っている間，近くのお店で大判焼を買って一緒に食べたけど，とても暖かくておいしかったと楽しそうに話してくれました。

熱心なプライマリーの先生達，喜んでホームプライマリーのために場所を提供して下さる姉妹，穣治をわざわざ電車にのせ，バスまで送って下さる神権者の方，このようなすばらしい人々の助けによって，みんなで出席したいと願うようになりました。

長女の真由美とよく話し合って，音楽は別の日に他の方法で習うことに決めてプライマリーへ出席するように致しました。

こうしているうちに，私も兄弟も教会の仕事に召され，私も扶助協会の責任を与えられました。神殿へ行く機会も与えられました。

第2ワード部では遠い子供達のために，いくつかのホームプライマリーが開かれることになり，私達の家族も長男長女を一つのクラスにして私が教師となって開くように言われました。「出来るかしら，大変だわ。遠くても行った方が気楽なのに」という気持で，あまり感謝の気持はありませんでした。でもとにかく「これは召しだ，できるだけやってみよう」と思いました。

自分の家で母親が教師になってプライマリーを開くにはいろいろとむずかしい点がありました。母親の生活のすべてをよく知っている子供達の教師となることは容易なことではありません。まず私は教師として「さあ，先生の毎日の生活を見てごらんなさい，私の模範に従って下さい」と言えるようにならなければいけないと思いました。それから教師として母親がどんなにプライマリーを大切に思っているかを示さなければならないと思いました。そして1週間のうち，一番適当と思われる日と時間を決め，それを厳守致しました。私の都合や子供の要求によって変更するようなことは決して致しませんでした。ですから学校で放課後用事ができてプライマリーに遅刻しそうになった時は走って帰ってきました。次にレッスンの準備のために十分に時間をとるようにしました。少なくとも5時間，10時間以上もかける時もありました。また，プライマリーが開かれる日は，使う部屋をそうじしてレッスンがすぐできるように準備し，仕事着を着がえて，髪にブラッシングをして身だしなみを整え，一人で祈って子供達を迎えました。

現在，ひばりが丘支部のプライマリーに出席しておりますが，私達の家族は，今まで出席したすべてのプライマリーを通して，ほんとうにたくさんの祝福を受けました。それを数えあげることも，また言葉だけで十分表わすことも出来ませんが，親の子供に対する責任と義務，そしてそれをなすことによって受ける祝福をはっきりと知りました。また親は子供の最大の教師であり，接しているすべての時が，福音を教えるすばらしい機会であることがわかりました。また悪の満つる末の世にあって神の兵士となって働く私達の子供を育てるという，すばらしい祝福と特権を受けていることを知りました。

私達が子供を主の道に従って正しく歩めるよう育てようとする時，プライマリーは，すばらしい助けをしてくれることを心から証致します。

聖 徒 の 道

昭和42年12月18日第三種郵便物認可
1973年1月20日発行（毎月1回20日発行）第17巻 第1号